

町田市教育委員会第5回定例会

日 時 2019年8月2日(金) 午前10時

場 所 第2、3、4、5会議室

議 題

1. 月間活動報告

2. 議案審議事項

議案第18号 2019年度町田市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の
状況の点検及び評価(2018年度分)報告書について

議案第19号 町田市立学校適正規模・適正配置等審議会委員の委嘱及び任命について

3. 協議事項

(1) 町田市立学校適正規模・適正配置等審議会への諮問について

(2) 町田市文化財保護審議会への諮問について

4. 報告事項

(1) 2020年度小学校教科用図書採択事務の経過及び展示会実施結果について
《指導課》

(2) 町田市立小学校教科用図書調査協議会の報告について
《指導課》

主 な 活 動 状 況

2019.7.5～2019.8.1

期日			活動内容	坂 本 教 育 長	後 藤 委 員	森 山 委 員	八 並 委 員	坂 上 委 員
月	日	曜						
7	5	金	教育委員会第4回定例会	○	○	○	○	○
	8	月	東京都市指導主事会定例会(教育センター)	○				
			教育長表敬訪問(JAICA派遣教員)	○				
			東京都市教育長会定例会(東京自治会館)	○				
10	水		多摩教育事務所教育委員会訪問	○				
11	木		定例校長会	○				
12	金		市教委訪問(高ヶ坂小学校)	○	○			
13	土		第57回中学校科学教育センター開講式(教育センター)	○	○			○
16	火		町田税務署長 面会	○				
			教育委員会第1回協議会	○	○	○	○	○
17	水		町田市立中学校PTA連合会 新役員挨拶・感謝状贈呈	○				
18	木		都事務職員会懇談会	○				
20	土		町田市民文学館ことばらんど夏展「縄文土器をよむー文字のない時代からのメッセージ」オープニングイベント(町田市民文学館 ことばらんど)				○	
22	月		令和元年度東京都市教育長会研修会(東京自治会館)			○	○	○
24	水		中学校連合音楽会(吹奏楽)(町田市民ホール)	○				
28	日		第42回観蓮会(薬師池公園)	○				
31	水		「第69回 社会を明るくする運動」町田大会(町田市民ホール)	○				
8	1	木	町田市総合水防訓練(図上訓練)	○				

議案第18号

2019年度町田市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（2018年度分）報告書について

上記の議案を提出する。

2019年8月2日提出
町田市教育委員会
教育長 坂本 修一

(提案理由説明)

本件は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図った上で、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成するものです。

2019年度

**町田市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行
の状況の点検及び評価（2018年度分）報告書**

2019年8月

町田市教育委員会

目 次

ページ

1	教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施について…	1
2	町田市教育委員会の点検及び評価の実施	… 1
3	町田市教育委員会の教育目標及び基本方針	… 4
4	2018年度に実施した重点事業等の点検及び評価	… 5
5	点検及び評価に関する有識者からの助言	…33
※	用語の解説	…37
	(点検及び評価シート中、「*」がついた用語を解説しています)	

1 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施について

教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条により、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが義務付けられています。また、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされています。

当該法律に基づき、町田市教育委員会では、効果的な教育行政の推進や、市民への説明責任を果たし、市民に信頼される教育行政を推進することを目的に、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図った上で、教育委員会の事務の点検及び評価を毎年度実施します。

2 町田市教育委員会の点検及び評価の実施

町田市教育委員会では、以下のとおり点検及び評価を実施しています。

(1) 点検及び評価の目的

- ① 町田市教育委員会は、毎年度、主要な事業の取組状況について、点検及び評価を行い、課題や取組の方向性を明らかにすることによって、効果的な教育行政の推進を図ります。
- ② 点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することによって、市民への説明責任を果たし、市民に信頼される教育行政を推進します。

(2) 点検及び評価の対象事業について

町田市教育委員会では、2014年2月に、国の教育振興基本計画を参酌して、町田市の教育の振興に関する基本的な計画である「町田市教育プラン」（第2期目。計画期間：2014年度から2018年度までの5年間）を策定し、2014年度からスタートしました。

町田市教育プランは、町田市教育委員会の「教育目標」及び「基本方針」を受け、それを実現するための教育施策を体系化した全体計画である基本プランと町田市教育委員会が直面する課題解決に向けて重点的に取り組む重点事業を示す重点プランから構成されています。

点検及び評価は、重点プランの重点事業を対象として実施するほか、以下の事業を対象として実施します。

【重点事業以外の点検及び評価の対象事業】

- ①町田市教育プラン策定後に生じた教育課題に対応して、新規に実施するようになった重要な事業
- ②基本プランの主な取組の中で、町田市教育委員会として特に力を入れて実施した事業

【点検及び評価の対象となる事業】

1. 重点事業

重点目標	重点事業
1 「知」「徳」「体」のバランスのとれた“町田っ子”を育成する	1 小中一貫町田っ子カリキュラムの推進
	2 学力向上推進プランの策定及び推進
2 いじめ問題、不登校、暴力行為等への対応を強化する	1 教育相談体制の充実
	2 いじめ問題への対応
	3 不登校児童・生徒への対応
	4 暴力行為等への対応
3 教育環境の整備を推進する	1 中規模改修の実施
	2 校舎等の改築の実施
	4 防音工事の実施
	6 学校図書館の蔵書整備
4 東日本大震災を教訓として災害に備える	1 防災マニュアルの策定
	2 防災教育デーの実施
5 効率的な学校運営体制を実現する	2 校務の合理化・効率化に向けた基本方針の策定及び推進
6 特別支援教育の充実を図る	2 特別支援教室及び特別支援学級の整備
	3 人的支援活用制度の再構築
7 家庭、地域、学校が協力した学校運営を推進する	1 学校支援センター事業の推進
	2 学校評価の推進
8 生涯学習を広める	1 若年層への学習機会の提供
	2 学習機会の充実に向けた連携の強化
	3 生涯学習情報の充実
	4 学習成果を活かす仕組みの充実
	5 地域活動の支援
9 図書館の利便性を高める	3 地域資料の活用の推進
10 文化資源の活用を推進する	1 遺跡の整備
	2 文学館の企画展示の充実

※重点目標3の重点事業3「トイレ改修の実施」は2017年度に、重点目標9の重点事業2「地域のサービス拠点の整備」は2016年度に、重点目標1の重点事業3「小中9年間を見通した学力向上策の推進」、重点目標3の重点事業5「学校体育館の非構造部材の耐震化工事の実施」、重点目標5の重点事業1「学校文書ファイリングシステムの構築」及び重点目標6の重点事業1「町田市特別支援教育推進計画の策定及び推進」は2015年度に、重点目標9の重点事業1「ICタグの導入」は2014年度に事業が完了しました。

2. 重点事業以外の事業

【基本プランの主な取組の中で特に力を入れて実施した事業】

事業
体力の向上
えいごのまちだ事業

(3) 点検及び評価の方法

- ① 点検及び評価においては、2頁～3頁に記載の対象事業について前年度の進捗状況を総括するとともに、課題や今後の取組の方向性を示します。
- ② 点検及び評価の対象事業の進捗状況等を取りまとめ、学識経験者・保護者の代表から意見を聴取した上で、教育委員会会議において点検及び評価を行います。
- ③ 教育委員会会議において、点検及び評価を行った後、その結果を取りまとめた報告書を町田市議会へ提出するとともに、町田市ホームページにおいて公表します。

(4) 点検及び評価の助言者

点検及び評価に当たって、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、町田市教育委員会では助言者として以下の3名の方に依頼しました。

岡田 行雄	帝京大学大学院 教職研究科 教授
吉田 和夫	一般社団法人教育デザイン研究所 代表理事
前山 世津	2018年度町田市立中学校PTA連合会会長

3 町田市教育委員会の教育目標及び基本方針

町田市教育委員会は、日本国憲法及び教育基本法の精神を基盤とし、町田市子ども憲章の趣旨を踏まえて、教育目標及び基本方針を定めています。

教育目標は、町田市教育委員会が育てようとする人間像と目指すべき社会を表すものです。基本方針は、教育目標を実現するための施策の指針であり、以下の4つを掲げています。

教育目標

町田市教育委員会は、子どもたちが知性と感性をはぐくみ、心身ともに健康で人間性豊かに成長し、互いの人格を尊重するとともに、社会の一員としての自覚をもって地域にかかわる人間に育つことを目指します。

また、だれもが生涯を通じ、あらゆる場で学び、支え合うことができる社会の実現を目指します。

基本方針1 子どもたちの生きる力と健やかな精神の育成

次代を担う子どもたちの、生涯にわたって学び続ける意欲を高め、健やかな精神、豊かな心、将来の職業や生活を見通して社会の中で自立的に生きていく力をはぐくみます。

基本方針2 学校の教育力の向上

様々な教育課題に対応し、子どもたちにとってよりよい教育を進めるために、教師の指導力を高め、教育環境の充実・整備を進めます。

基本方針3 家庭、地域、学校が連携した教育の推進

保護者や地域、関係諸機関と学校とが連携した教育の取組を推進し、子どもたちの健全育成や安全の確保を進めます。

基本方針4 生涯学習の推進

市民が生涯にわたって、いつでもどこでも自由に学び続け、支え合うことができる社会を目指し、学習の機会や場の充実、環境の整備を進めます。

4 2018年度に実施した重点事業等の点検及び評価

点検及び評価の対象となる事業ごとに、「事業概要」「指標」「目標値（目標達成年度）」「町田市教育プラン（2014年度～2018年度）の成果」「2018年度の計画」「2014年度～2018年度の取組状況」「課題」「今後の取組の方向性」を記載しています。

重点目標1	「知」「徳」「体」のバランスのとれた	「*」がついた用語については36ページ以降で解説しています。
重点事業1	小中一貫町田っ子カリキュラム(*)の推進	【事業概要】 事業の主な内容について記載しています。
事業概要	・2014年度から、規範教育、キャリア教育、食育の3つを小・中学校全校で実施します。 ・新しい小中一貫町田っ子カリキュラムの効	【指標】 重点事業がどの程度達成されているか、成果を確認するための基準となる項目を記載しています。
指標	カリキュラムの検証及び改善の実施	
目標値 (目標達成年度)	カリキュラムの検証及び改善の実施(2018年度)	【目標値（目標達成年度）】 目標達成年度に目指す値（状況）を記載しています。
町田市教育プラン (2014年度～2018年度)の成果	<input checked="" type="checkbox"/> 目標を達成できた 規範教育、キャリア教育、食育の3つの内容を小・中学校全校で実施しました。特に規範意識については、特別の教科道徳と関連させたカリキュラムを作成し、全校に周知しました。	【町田市教育プラン（2014年度～2018年度）の成果】 5年間の成果を記載しています。
2018年度の計画	・キャリア教育検討委員会において、課題を踏まえたカリキュラムの改訂作業を行いました。 ・食育検討委員会を「健康教育(食育)検討委員会」に改めます。	【2018年度の計画】 2018年度の事業の計画を記載しています。
2014年度～2018年度 の取組状況	・各カリキュラム検討委員会で課題を踏まえた改訂作業を行いました。 【規範】 ・道徳の教科化、教科書の導入に伴い、特別の教科道徳と各教科の連携を図るよう改善 ・校種間の接続における学習指導要領における法に関する教育の連携 【キャリア】 ・新学習指導要領を踏まえ、キャリア教育推進のための視点を整理し、リーフレット形式に変更 ・学校教育と職業生活との接続を踏まえ、町田市におけるキャリア教育の実践について理解を深められるよう改善 【食育】 ・リーフレット形式に変更し、各学校で活用できるように改善 ・第3次食育推進基本計画や第2次食育推進計画の内容に整理 ・各学校の取組に活用できる様々な情報を掲載	【2014年度～2018年度の取組状況】 事業を計画通りに実施できたか否かを記載するとともに、5年間の事業の具体的な実施内容や実績値、成果等を記載しています。
課題	調査対象生徒は異なりますが、生徒の意識調査では向上しているものの、キャリア教育及び食育は低下しています。キャリア教育及び健康教育(食育)のカリキュラムを全校で推進	【課題】 2014年度～2018年度の取組状況を踏まえた課題を記載しています。
今後の取組の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 ・毎年度の全国学力学習状況調査の意識調査を活用し変容を捉え、キャリア教育については、2021年度にカリキュラムの改訂作業を行います。対する興味や関心を高めるために、ものづくりプログラムを実施します。 ・食育についてはカリキュラムを生かしながら、レシピコンテストや地産地消の推進を行っていきます。 ・規範教育については、小中学校で全面実施となった「特別の教科道徳」の実を図るためのカリキュラムを検討していきます。	【今後の取組の方向性】 課題を踏まえて、今後の取組の方向性を記載しています。

重点目標1	「知」「徳」「体」のバランスのとれた”町田っ子”を育成する		
重点事業1	小中一貫町田っ子カリキュラム(*)の推進	所管課	指導課
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・2014年度から、規範教育、キャリア教育、食育の3つの領域の新たな小中一貫町田っ子カリキュラムを小・中学校全校で実施します。 ・新しい小中一貫町田っ子カリキュラムの効果を検証し、必要に応じて改善を行います。 		
指標	カリキュラムの検証及び改善の実施		
目標値 (目標達成年度)	カリキュラムの検証及び改善の実施(2018年度)		
町田市教育プラン (2014年度～2018 年度)の成果	<input checked="" type="checkbox"/> 目標を達成できた <input type="checkbox"/> 目標を達成できなかった		
	規範教育、キャリア教育、食育の3つの領域の新たな小中一貫町田っ子カリキュラムを作成し、小・中学校全校で実施しました。特に規範意識については、特別の教科道徳と関連させたカリキュラムを作成し、全校に周知しました。		
2018年度の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育検討委員会において、課題を踏まえたカリキュラムの改訂を行います。 ・食育検討委員会を「健康教育(食育)検討委員会」に改め、カリキュラムの改訂を行います。 		
2014年度～2018年度 の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・各カリキュラム検討委員会で課題を踏まえた改訂作業を行い、改訂版のカリキュラム(案)を作成しました。町田っ子カリキュラムの内容に関する変更点は次のとおりです。 【規範】 ・道徳の教科化、教科書の導入に伴い、特別の教科道徳と各教科との連携が図れるように改善 ・校種間の接続における学習指導要領における法に関する教育の整理 【キャリア】 ・新学習指導要領を踏まえ、キャリア教育推進のための視点を整理し、リーフレット形式に変更 ・学校教育と職業生活との接続を踏まえ、幼児期から高等学校までを体系的に整理 ・町田市におけるキャリア教育の実践事例を示し、若手教員でもキャリア教育の取組について理解を深められるように改善 【食育】 ・リーフレット形式に変更し、指導ポイントを簡潔に表示 ・第3次食育推進基本計画や第2次町田市食育推進計画、新学習指導要領を踏まえた内容に整理 ・各学校の取組に活用できる様々な情報を掲載 		
課題	調査対象生徒は異なりますが、生徒の意識調査では、2013年度と比較して、規範意識は向上しているものの、キャリア教育及び食育は低下しています。2018年度に改訂したキャリア教育及び健康教育(食育)のカリキュラムを全校で推進していくことが必要です。		
今後の取組の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了		
	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年度の全国学力学習状況調査の意識調査を活用し変容を捉えていきます。 ・キャリア教育については、2021年度にカリキュラムの改訂を行うとともに、ものづくりに対する興味や関心を高めるために、ものづくりプログラムを実施します。 ・食育についてはカリキュラムを生かしながら、レシピコンテストや地場農産物の利用促進を行っていきます。 ・規範教育については、小中学校で全面実施となった「特別の教科 道徳」の授業の充実を図るためのカリキュラムを検討していきます。 		

重点目標1	「知」「徳」「体」のバランスのとれた”町田っ子”を育成する
-------	-------------------------------

重点事業2	学力向上推進プランの策定及び推進	所管課	指導課
事業概要	国や東京都の学力調査の結果などから、小・中学校の児童・生徒の学力の状況を多面的に分析し、小・中学校全体で学力向上推進プランを策定及び推進します。		
指標	東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」及び「全国学力・学習状況調査」結果のうち国語・算数・数学の学力が上がった学校の割合		
目標値 (目標達成年度)	70%※(2018年度) ※2013年度の調査結果を基準として算出する。		
町田市教育プラン (2014年度～2018年度)の成果	<input type="checkbox"/> 目標を達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 目標を達成できなかった		
	<2018年度の全国学力学習状況調査の平均正答率が2013年度比較で向上した学校の割合> 小学校国語A:47.6%、小学校国語B:31.0% 小学校算数A:64.3%、小学校算数B:54.8% 中学校国語A:60.0%、中学校国語B:65.0% 中学校数学A:60.0%、中学校数学B:60.0%		

2018年度の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上推進パイロット校(第3期)において、学力向上のための指導法を開発し、その成果を検証します。 ・研究推進校を新たに5校(1年次)指定し、学力向上に関わる実践的な研究を推進します。 ・学力向上チャレンジ校において、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて「協同的探究学習(*)の取組」、「基礎・基本の取組」、「中学校区域の取組」の3つのテーマに沿った研究を推進します。 ・「学力向上推進プラン」(第1次及び第2次)のこれまでの取組を分析・評価し、新たな学力向上推進プランを策定します。
2014年度～2018年度 の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上推進プラン第1・2次では、できる学力とわかる学力を両輪とし、特に、わかる学力の育成に向けて、協同的探究学習の理念を全小・中学校で実践するため、協同的探究学習の授業公開を2014年度から2017年度まで実施しました。 ・2014年度に学力向上推進プランを策定し、2017年5月、2019年3月に改訂しました。 ・2013年度から2018年度にかけ、わかる学力の育成を目指す学力向上推進パイロット校や各学校の学力の課題を解決する研究推進校、協同的探究学習や基礎基本に取組む学力向上チャレンジ校、家庭学習や放課後学習のあり方について研究する学力向上プラスワン研究校などを指定し、学力向上に取り組んできました。 ・2017年度から、計画的にICT機器の整備を行うとともに、ICT活用教育推進モデル校を指定しました。 ・2018年度の全国学力学習状況調査において、中学校では基礎的な知識を問うA問題と活用する力を問うB問題の平均正答率のいずれも全国より高く、東京都とほぼ同じ水準となりました。小学校では、A問題とB問題の双方で全国よりも高くなっていますが、東京都を下回りました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上には協同的探究学習のみならず、基礎基本を身に付けさせる方策や学習への関心・意欲を高めさせる取組が必要です。 ・学習指導要領の改訂及びこれまでの全国学力学習状況調査等の結果を踏まえ2019年3月に策定した学力向上推進プラン(第3次)に基づいた授業改善が必要です。
今後の取組の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了
	<ul style="list-style-type: none"> ・「学力向上推進プラン(第3次)(2019年3月作成)」を推進します。 ・研修推進校(2年次)、研究指定校(1年次)、学力向上重点校(1年次)を指定します。研究成果を研究発表会等で発信し、教育課題の改善、教育の質的向上を図ります。 ・これまでの協同的探究学習を基に新学習指導要領の趣旨を踏まえ、市全体の学力向上を図るため、授業をデザインする8つの取組(見通しをもたせる導入、発問の工夫、価値ある対話の共有、振り返りの設定、構造的な板書とノート指導、ICT機器の活用、思考ツールの活用、認め合う・学び合う集団の形成)を推進し、授業改善を図ります。 ・授業においてChromebookや大型提示装置等のICT機器を効果的に活用し、主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図ります。

重点目標2	いじめ問題、不登校、暴力行為等への対応を強化する
-------	--------------------------

重点事業1	教育相談体制の充実	所管課	教育センター
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校全校に配置したスクールカウンセラー(*)を活用し、相談体制の充実を図ります。 ・スクールソーシャルワーカー(*)を活用し、保護者、学校及び関係機関と連携した教育相談体制を構築します。 ・増加している発達障がいに関する相談に対応するため、専門医等と連携した教育相談を実施します。 		
指標	教育相談を受けて良かったと思う人の割合		
目標値 (目標達成年度)	80%(2018年度)		
町田市教育プラン (2014年度～2018年度)の成果	<input checked="" type="checkbox"/> 目標を達成できた <input type="checkbox"/> 目標を達成できなかった		
	2018年度に教育相談を受けた人に対するアンケートを11月下旬から12月上旬にかけて実施し、教育相談を受けて「満足した人」と「やや満足した人」の合計は99%となりました。		

2018年度の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、教育センターの教育相談担当の連携を図るため、定期的に連絡会を実施します。 ・全中学校を訪問し、また他の相談機関との連絡会に参加するなど、関係機関との連携を強化していきます。 ・増加する相談に対して迅速かつ適切に対応できるよう、相談者のニーズに応じた相談体制の効率化等を引続き検討し整備していきます。 ・専門医による年間を通じた各種研修会等を実施し、相談の質の向上や、相談員の技量の向上を図っていきます。 		
2014年度～2018年度の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーとは年2回、スクールソーシャルワーカーとは月1回の連絡会を継続的に実施しました。教育相談の相談者に関する情報共有や今後の対応の検討及び役割分担の確認を行うことで問題解決に取り組みました。 ・2014年度から、児童精神科医等の専門家による教育相談を実施(児童精神科医相談:年間17～23回、言語聴覚士相談:年間12～18回、作業療法士相談:年6～12回)し、発達障がいに関する教育相談で、より専門性の高い助言を行うことができました。 ・2017年度から学校連携の窓口として学校担当制を設け、市内全小中学校を訪問して教育相談の利用方法や現状について説明を行い、学校と教育相談員の連携がスムーズに行える体制を整備しました。また、児童精神科医による研修会等を年6回実施し、相談員の資質向上を図りました。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・相談内容が多岐にわたるため、関係機関と連携する必要があるケースが増えてきており、組織的な連携のための体制作りが急務となっています。 ・初回相談(インテイク)までの待機期間は年々短くなっているものの、学校の三者面談の時期などは待ち時間が長くなってしまうため、今後も引続き効率的な対応を行う体制を整えていく必要があります。 		
今後の取組の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了		
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体や関連する他の相談機関との組織的な連携を行うためにも、今後も定期的な連絡会や学校訪問を実施します。 ・増加する相談に対して迅速かつ適切に対応できるよう、相談者のニーズに応じた相談体制の効率化等を引続き検討し整備していきます。 		

重点目標2	いじめ問題、不登校、暴力行為等への対応を強化する
-------	--------------------------

重点事業2	いじめ問題への対応	所管課	指導課
事業概要	町田市いじめ防止基本方針を定め、いじめ問題の早期発見、早期解決を図るための対策(心のアンケート(*)の実施、いじめ対応サポートチーム)を推進するとともに、いじめの未然防止に向け、児童・生徒の発達段階に応じた人権教育を推進します。		
指標	認知したいじめに対する解消率及びいじめの出現率※ ※いじめの出現率・・・いじめを受けていると認知された児童・生徒数/小・中学校の児童・生徒総数		
目標値 (目標達成年度)	解消率:100%、出現率:2012年度の現状値0.59%より低下(2018年度)		
町田市教育プラン (2014年度～2018年度)の成果	<input type="checkbox"/> 目標を達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 目標を達成できなかった		
	2016年度から国の方針が変わり、いじめを積極的認知するようになりました。2018年度のいじめの認知率は、小中学校合わせて3.1%となり、2012年度よりも上昇しています。解消率は小学校81.2%、中学校73.3%と、100%には至りませんでした。各学校ではいじめが繰り返し発生しないよう継続的に見守りを行っています。		

2018年度の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・校長会や副校長会、生活指導主任会等において、心のアンケートの改訂の趣旨や報告の方法について管理職や教員に周知し、適切ないじめの認知や報告についての理解をより一層深めていきます。 ・若手教員育成研修や生活指導主任会等において、いじめをテーマにした研修の充実を図り、経験年数の少ない教員やいじめ問題の対応の核となる教員のいじめ問題に対する対応力を高めていきます。 ・「町田市いじめ防止基本方針」を改訂し、学校に周知するとともに、家庭・地域に広報します。 ・各学校が策定する「学校いじめ防止基本方針」を保護者・地域に対して、周知します。 		
2014年度～2018年度の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年5月に町田市いじめ防止基本方針を改訂し、2018年度に再度改訂案を作成しました。各学校では、2015年度の改訂を受け、学校いじめ防止基本方針を策定し、保護者等に周知しました。 ・2017年度に心のアンケートの実施時期、内容を変更し、2018年度から実施しました。 ・2018年度は、校長会や副校長会、生活指導主任会において、心のアンケートの改訂の趣旨や報告方法について周知し、適切ないじめの認知や報告についての理解を深めました。 ・毎年度、若手教員育成研修(1～3年次)において、いじめの未然防止、早期発見、早期解決をテーマにした研修を実施しました。 ・2018年度からは、1年次若手教員及び各学校1名以上を悉皆にした年間2回の「ゲートキーパー研修」を実施しました。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・市全体のいじめの認知率は低下しているものの、全てのいじめが年度内に解消していない現状があります。 ・いじめの解消率は年々異なりますが、1件1件のいじめを長期化させないように、学校いじめ対策委員会を活用して早期からの組織的な取組が必要です。 		
今後の取組の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了		
	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年4月改訂の「町田市いじめ防止基本方針」について、校長会や生活指導主任会等において周知を図り、学校いじめ防止基本方針を改訂します。 ・各学校において、東京都教育委員会による「ふれあい調査」の学校シートを活用し、課題の把握や組織体制を評価して、その後の取組につなげるよう啓発します。 ・各職層研修にいじめ対応に関する内容を組み込み、教員の意識の醸成を図ります。 		

重点目標2	いじめ問題、不登校、暴力行為等への対応を強化する
-------	--------------------------

重点事業3	不登校児童・生徒への対応	所管課	教育センター 指導課
事業概要	<p>・心理的な要因により不登校又は不登校傾向にあり、通常の学級に通学できない児童・生徒に対して、個別指導及び小集団による体験活動を行うことにより、当該児童・生徒の居場所をつくり、学校復帰に向けた支援を行います。</p> <p>・不登校の早期発見、早期解決を図るための対策（不登校調査を毎月実施、欠席連絡シートの活用、スクールソーシャルワーカーの活用）を推進します。</p>		
指標	不登校児童・生徒のうち学校に復帰した人数及び全体の復帰率		
目標値 (目標達成年度)	2012年度の現状値※に比して復帰人数及び復帰率の向上(2018年度) ※2012年度 復帰人数:139人 復帰率:33%		
町田市教育プラン (2014年度～2018 年度)の成果	<input type="checkbox"/> 目標を達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 目標を達成できなかった		
	2018年度には小学校不登校児童162名のうち26名、中学校不登校生徒494名のうち62名が学校に復帰し、復帰率は13.4%になりました。		

2018年度の計画	<p>・不登校の未然防止のために、児童・生徒の不安や悩みを早期発見する仕組みや校内での情報共有を図るための校内委員会等の充実を図っていきます。</p> <p>・欠席が続き始めた児童・生徒を不登校にさせないために、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、教育センターの教育相談員との連携を引続き密にし、情報共有を速やかに行って課題解決を図ります。</p> <p>・適応指導教室(*)については、個別指導及び小集団による体験活動など、学校復帰率の向上のために、引き続き運営・指導内容等の充実を図ります。</p>		
2014年度～2018年度 の取組状況	<p>・不登校調査や欠席連絡シート等から児童・生徒の不安や悩みを早期発見・共有し、初期対応や個別対応につなげていきました。</p> <p>・心理的な要因等により通常の学級に通学できない児童・生徒に対して、教育センターの教育相談員やスクールソーシャルワーカー、学校配置のスクールカウンセラーも含めた体制で学校と連携する中で、問題解決に取り組みました。</p> <p>・小・中学校適応指導教室については、児童・生徒の実態に応じた個別指導計画を立てて、生活・教科の個別指導を行いました。また、居場所づくりとして小集団による体験活動を行うなど、学校復帰を目指し段階的な指導を行いました。</p> <p>・適応指導教室を利用した児童・生徒の復帰率はこの5年間ほぼ安定しており、2018年度は小学校で19名中9名(中学進学による登校復帰7名含む)、中学校では16名中13名(高校進学による登校復帰7名含む)が学校復帰しました。</p>		
課題	<p>・不登校の未然防止・解消に向け、学校、教育委員会及び関係機関等が連携を密にし、校内で協力して対応するために委員会を開催したり、定期的な家庭訪問を実施する等、継続的な支援をしていく必要があります。</p> <p>・不登校児童生徒が増加傾向にある中で、適応指導教室などの受け入れ態勢を整備する必要があります。</p>		
今後の取組の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了		
	<p>・不登校の未然防止のために、児童・生徒の不安や悩みを早期発見する仕組みや校内での情報共有を図るための取組の充実を図ります。</p> <p>・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、教育センターの教育相談員との連携を引続き密にし、欠席が続き始めた児童・生徒の初期対応、早期対応を行うため、情報共有を速やかに行って課題解決を図ります。</p> <p>・2017年2月、不登校の子どもの学校復帰のみならず学校以外での学びの場における学習活動への支援などが盛り込まれた教育機会確保法が完全施行されました。この趣旨を踏まえ、今後は適応指導教室の体制整備、運営・指導内容等の改善を進めるとともに、スクールソーシャルワーカーを増員し、子どもが社会とつながる環境づくりを進めていきます。</p>		

重点目標2	いじめ問題、不登校、暴力行為等への対応を強化する
-------	--------------------------

重点事業4	暴力行為等への対応	所管課	教育センター 指導課
事業概要	暴力行為等を繰り返す児童・生徒に対して、まちだJUKU(*)において一定期間個別の指導を行うことで、問題行動を改善し、健全な学校生活を送れるよう支援します。		
指標	まちだJUKUの支援に対する学校の満足度		
目標値 (目標達成年度)	100%(2018年度)		
町田市教育プラン (2014年度～2018 年度)の成果	<input checked="" type="checkbox"/> 目標を達成できた <input type="checkbox"/> 目標を達成できなかった		
	・まちだJUKUが専門的な助言・指導を行うことで、児童・生徒の問題行動への適切な対処や、学校の負担軽減につながっています。 ・対応を必要とする案件は減少傾向にありますが、その中でも困難ケースとしての対応が必要とされるケースには、校内の委員会として開催されるケース会議にまちだJUKU担当者と教育相談の相談員が共に出席し、元教員管理職と心理の専門家という立場から助言を行い、課題解決につなげました。		

2018年度の計画	・関係機関の更なる連携強化を進めます。 ・発達障がい起因する問題行動との関連性が強くなってきていることから、問題行動等の未然防止のために、「まちだJUKU」の対象と重なっている不登校傾向の生徒の情報を、教育相談や適応指導教室と共有し、連携強化を図っていきます。		
2014年度～2018年度 の取組状況	・2014年度には、学校のまちだJUKU専門チームへの派遣要請に対応することに加え、相談の段階から専門チームの助言や支援が行えるよう制度の見直しを行いました。 ・毎年度当初の校長会等で小・中学校に対し、まちだJUKUの事業内容の周知を図りました。 ・2016年度には、まちだJUKUの専門チームの行動基準を定め、学校への対応事項や学校職員を交えたケース会議の開催等、連携及び支援内容について明確化を図りました。 ・2017年度には、学校における対象生徒への共通理解の重要性を認識し、協力体制の充実を図るため、「生徒指導における連携の在り方」及び「構造図」を、生徒指導の基本的な考え方としてまとめました。また、これらを生活指導の中心となる生活指導主任会に示し、支援システムの明確化を図るとともに、共通実践のための指導・助言を行いました。 ・学校訪問により確認した課題のある生徒の状況について、継続して学校と情報交換を行い、問題行動等の解消や健全育成のための支援に努め、学校と教育委員会が、相互に連携して解決を図りました。		
課題	「まちだJUKU」の対象となるケースについては、発達障がい起因した問題行動であるケースが増えてきているため、教育相談や適応指導教室との連携を強化し、不登校対策を行うことが必要となってきています。		
今後の取組の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了		
	まちだJUKUを中学校適応指導教室の中で展開し、問題行動や不登校傾向の生徒の情報を、教育相談や適応指導教室と共有し、連携しながら対応を図っていきます。		

重点目標3	教育環境の整備を推進する
-------	--------------

重点事業1	中規模改修の実施	所管課	施設課
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・建築後、大規模改修を行っていない小・中学校24校に対し、改修工事のスピードアップを図るため、校舎外部を中心とした中規模改修を行います。 ・外壁、サッシ、屋上などを改修し、建物の長寿命化、エネルギー効率の向上、非構造部材の耐震化を図ります。 		
指標	「中規模改修工事」完了の学校数		
目標値 (目標達成年度)	24校(2017年度)		
町田市教育プラン (2014年度～2018年度)の成果	<input type="checkbox"/> 目標を達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 目標を達成できなかった		
	2018年度までに24校中10校の改修工事が完了しました。		

2018年度の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校2校(南第二小学校・小川小学校)の改修工事を行います。 ・2019年度に予定している小学校2校(南つくし野小学校、鶴間小学校)、中学校1校(成瀬台中学校)の改修工事の設計を行います。
2014年度～2018年度 の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・2014年度～2017年度については、小学校4校(大蔵小学校、山崎小学校、小山小学校、南成瀬小学校)・中学校3校(山崎中学校、木曾中学校、真光寺中学校)の改修工事を行いました。 ・2018年度は小学校2校(小川小学校、南第二小学校)の中規模改修工事及び小学校2校(南つくし野小学校、鶴間小学校)・中学校1校(成瀬台中学校)の改修工事の設計を行いました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎の改築・改修事業は多額の費用を要し、市の財政負担が大きいと、国や都の補助金採択や市の財政状況の影響を大きく受ける事業です。 ・市内の小・中学校の半数以上は築後30年以上を経過しており、設備等の老朽化が進んでいるため施設の適切な維持や改修の更なるスピードアップなどが必要となっています。また、今後は町田市公共施設再編計画に併せた学校施設の長寿命化や複合化への対応が求められます。
今後の取組の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了
	<ul style="list-style-type: none"> ・町田市公共施設再編計画に基づく個別施設計画を2020年度までに策定します。 ・今後は個別施設計画に基づく長寿命化等の改修工事を行う必要がありますが、個別施設計画策定までの間は、施設の適切な維持保全を行うため、引き続き校舎の改修を実施します。

重点目標3	教育環境の整備を推進する
-------	--------------

重点事業2	校舎等の改築の実施	所管課	施設課
事業概要	建築後50年前後経過した学校のうち、教育機能や構造上、改修では対応できない施設について改築を行います。		
指標	「校舎等改築工事」完了の学校数		
目標値 (目標達成年度)	2校(2017年度)		
町田市教育プラン (2014年度～2018年度)の成果	<input type="checkbox"/> 目標を達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 目標を達成できなかった		
	・2014年度に着工した鶴川第一小学校は、2015年度に校舎及びプール棟が完成し、2017年度に給食棟、2018年度は体育館棟が完成しました。 ・2018年度に町田第一中学校の仮設校舎の建設を行いました。		

2018年度の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・鶴川第一小学校体育館棟改築工事(2017-2018年度債務負担事業)を継続して実施します。 ・町田第一中学校の仮設校舎の建設を行います。また、既存校舎の解体及び新校舎建設のための契約を締結します。
2014年度～2018年度の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・2014年度に着工した鶴川第一小学校は、2015年度に校舎及びプール棟が完成し、2017年度に給食棟、2018年度は体育館棟が完成しました。 ・町田第一中学校については、2016年度に基本設計、2017年度に実施設計が完了し、2018年度は仮設校舎の建設を行うとともに、既存校舎の解体及び新校舎建設のための契約を締結しました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎の改築・改修事業は多額の費用を要し、市の財政負担が大きいため、国や都の補助金採択や市の財政状況の影響を大きく受ける事業です。 ・老朽化した学校施設のすべてを改築するのは財政的に非常に困難です。改修をしても課題が解決しない学校は改築を実施し、その他の学校は改修等で長寿命化を図り、長く使い続けることで事業費の抑制を図ることが求められていますが、改修・改築ともに遅滞する傾向にあります。 ・児童・生徒が良好な学習環境で学べるよう、町田市公共施設再編計画に基づき2020年度までに策定する個別施設計画に併せて、建物の長寿命化等、学校施設の適正な維持・管理を行っていく必要があります。
今後の取組の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了
	<ul style="list-style-type: none"> ・鶴川第一小学校については、運動場整備及び外構整備工事を行います。また、旧体育館棟の解体、第二運動場の整備工事を行い、事業完了となります。 ・町田第一中学校は既存校舎の解体及び新校舎の建設工事に着手し、2021年度の事業完了を目指します。

重点目標3	教育環境の整備を推進する		
重点事業4	防音工事の実施	所管課	施設課
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・厚木基地住宅防音対象地域内の学校施設の防音工事を行います。 ・校舎の窓、出入口の建具を防音サッシに取替え、空気調和設備・換気設備を設置します。 		
指標	「防音工事」完了の学校数		
目標値 (目標達成年度)	14校(2018年度)		
町田市教育プラン (2014年度～2018 年度)の成果	<input type="checkbox"/> 目標を達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 目標を達成できなかった		
	2017年度までに14校中12校の工事が完了しました。2018年度は1校の契約を締結し、改修工事に着手しました。		
2018年度の計画	町田第六小学校の防音工事(1年度目)を実施します。		
2014年度～2018年度 の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・2014年度は、藤の台小学校及び町田第三中学校の工事が完了し、2015年度は町田第二小学校、2016年度には南中学校の工事が完了しました。 ・2018年度は、町田第六小学校の契約を締結し、改修工事に着手しました。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎の改築・改修事業は多額の費用を要し、市の財政負担が大きいため、国や都の補助金採択や市の財政状況の影響を大きく受ける事業です。 ・米軍艦載機の厚木基地から山口県岩国基地への移転の決定に伴い、厚木基地を対象とする今後の防音助成(民生安定施設整備事業)の動向に注視する必要があります。 		
今後の取組の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了		
	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き町田第六小学校防音工事を行い、2020年度完了を目指します。また、それに併せてトイレ・外壁等の改修工事を行います。 ・2019年度は町田第二中学校の復旧防音工事設計業務委託を行います。 		

重点目標3	教育環境の整備を推進する
-------	--------------

重点事業6	学校図書館の蔵書整備	所管課	教育総務課 指導課
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館図書標準に蔵書数が達していない学校について、学校図書館図書標準を充足するよう、学校ごとに学校図書館蔵書整備計画を策定します。 ・全校が5年間で学校図書館図書標準を達成できるよう、学校図書館蔵書整備計画の進捗管理をします。 		
指標	学校図書館図書標準を充足した学校数		
目標値 (目標達成年度)	62校(2018年度)		
町田市教育プラン (2014年度～2018 年度)の成果	<input type="checkbox"/> 目標を達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 目標を達成できなかった		
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館図書標準を充足するよう、学校ごとに学校図書館蔵書整備計画を策定しました。 ・全校が5年間で学校図書館図書標準を達成できるよう、計画の進捗管理を行いました。 ・2018年度末時点で学校図書館図書標準に達した学校数は小学校33校、中学校8校となりました。 		

2018年度の計画	文部科学省が定める学校図書館図書標準を全校が達成できるよう、各小・中学校において作成した「学校図書館蔵書整備計画」に基づき、引き続き必要な予算配当を行うとともに、計画の進捗管理を行います。
2014年度～2018年度 の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・各小・中学校において作成した「学校図書館蔵書整備計画」に基づき、図書を購入できるよう予算の配当を行うとともに、毎年10月に蔵書整備の進捗状況を確認しました。 ・2014年度に図書担当教員や図書指導員を対象として、学校図書館コンピュータシステムの利用状況に係るアンケートを実施しました。 ・学校図書館コンピュータシステムの機能を十分に活用できるよう、2015年度に「情報BOX活用インデックス」を作成し、各小・中学校へ配布しました。
課題	学校図書館図書標準に基づいた標準図書数の維持と蔵書構成を考慮した蔵書整備をしていく必要があります。また、図書標準未達成校については、引き続き図書標準に達するよう蔵書整備をする必要があります。
今後の取組の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了
	学校図書館図書標準の達成度を考慮しながら、引き続き学校ごとに学校図書館蔵書整備計画を策定し、2019年度末には全校(62校)で学校図書館図書標準を達成できるよう、計画の進捗管理を行います。

重点目標4	東日本大震災を教訓として災害に備える
-------	--------------------

重点事業1	防災マニュアルの策定	所管課	指導課
事業概要	東京都帰宅困難者対策条例に伴う児童・生徒の保護や、学童保育クラブとの連携などを踏まえた、学校における防災マニュアルを策定します。		
指標	防災マニュアルの策定校数		
目標値 (目標達成年度)	62校(2014年度)		
町田市教育プラン (2014年度～2018年度)の成果	<input checked="" type="checkbox"/> 目標を達成できた <input type="checkbox"/> 目標を達成できなかった		
	<ul style="list-style-type: none"> ・全小・中学校において、学校防災マニュアル(地震編、風水害編、火災編、熱中症編)を作成しました。 ・災害時における教職員の役割が明確になり、災害時の校内体制の構築につながりました。 		

2018年度の計画	各学校で作成・修正した防災マニュアルに基づいて実施されている具体的な取組について確認し、必要に応じて適宜指導・助言を行います。		
2014年度～2018年度の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年度に全小・中学校において、学校防災マニュアル(地震編、風水害編、火災編、熱中症編)を作成しました。 ・2017年度に、同マニュアルの見直しを行うとともに、それに基づいた安全指導計画を作成し、教育課程の補助資料として教育委員会に提出しました。 ・2018年度は、新たに応急教育マニュアルを作成しました。 ・各学校では、指導計画の作成にあたり、災害安全等について明示するなど、学校教職員の役割や具体的な対応等を明確にするとともに、校内の防災体制の徹底を図るよう指導しました。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・土砂災害指定地域の変更や校舎の増改築、教室配置の変更、地域からの要請等に応じて適宜各学校の防災マニュアルを修正していく必要があります。 ・大阪府で発生した地震に伴うブロック塀倒壊事故を踏まえ、通学路の安全点検を行い、登下校時の安全を確認していく必要があります。 		
今後の取組の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了		
	学校を取り巻く様々な環境の変化を踏まえて、状況に応じて学校防災マニュアルの見直しを行っていきます。		

重点目標4	東日本大震災を教訓として災害に備える
-------	--------------------

重点事業2	防災教育デーの実施	所管課	指導課
事業概要	小・中学校全校で防災教育デーを開催し、学校及び児童・生徒の防災意識の向上を図るとともに、中学校区を単位とした訓練を実施します。		
指標	防災教育デーの実施		
目標値 (目標達成年度)	62校(2017年度)		
町田市教育プラン (2014年度～2018年度)の成果	<input checked="" type="checkbox"/> 目標を達成できた <input type="checkbox"/> 目標を達成できなかった		
	<ul style="list-style-type: none"> ・2014年度に全中学校区で防災教育デーの5ヶ年計画を作成し、全校(62校)で防災教育デーを実施しました。 ・災害対策についての意識が高まり、災害発生時の行動についての知識を身に付けることができました。 		

2018年度の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校区を単位とした実践的な訓練となるよう、2017年度の防災教育デーの成果と課題を踏まえ、小・中学生が共通の課題意識をもって取り組める活動内容となるよう指導・助言します。 ・5ヶ年計画の成果と課題を踏まえ、2019年度以降の取組について検討します。
2014年度～2018年度 の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・2014年度以降、全中学校区で防災教育デーを実施し、小・中学校が連携しながら小中合同引渡し下校訓練や集団下校訓練等を行いました。 ・中学校生活指導主任会等で、各学校の課題等について地区別に情報交換を行うことを通して、地域の実態や環境などについても情報共有し、各学校の実態に合わせて避難訓練を実施するための工夫など防災教育の視点で協議し、それを生かせるようにしました。
課題	各中学校区で実施してきた防災教育デーの取組を、小・中学生が発達段階や地域の実態に応じて協力し合う実践的な取組を行っていく必要があります。
今後の取組の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了
	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校、各地区の実態に合わせて取組を推進していきます。 ・「防災ノート～災害と安全～」を有効に活用して、防災への関心を高め、災害時における防災行動を身に付けられるようにしていきます。

重点目標5	効率的な学校運営体制を実現する		
重点事業2	校務の合理化・効率化に向けた基本方針の策定及び推進	所管課	教育総務課 指導課
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・事務の軽減・見直しにより、校務の合理化・効率化を図ります。 ・学校職員がそれぞれの役割・職責を果たし、組織としての力を十分に発揮できるよう、運営体制を整備します。 		
指標	<ul style="list-style-type: none"> ・指針の作成 ・効率的な運営の仕組みづくり 		
目標値 (目標達成年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・指針の作成(2015年度) ・効率的な運営の仕組みづくり(2017年度) 		
町田市教育プラン (2014年度～2018 年度)の成果	<input checked="" type="checkbox"/> 目標を達成できた <input type="checkbox"/> 目標を達成できなかった		
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の事務分担における標準モデルを作成し、教員の負担が大きい調査事務等の見直しを行いました。 ・事務改善に向けた統合型校務支援システムの導入を進めました。 		
2018年度の計画	2019年4月から校務支援システムを段階的に稼働させるため、2018年度に業者選定を行い、システムの構築を行います。また、システム導入による校務の効率化を実現するため、学校の教職員を含め、システム本稼働に向けた具体的な運用方法の検討を進めます。		
2014年度～2018年度 の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・2014年度から2015年度にかけ、学校教職員と教育委員会事務局で構成された事務事業見直し検討委員会を発足し、学校の事務分担の標準モデルを作成、周知するとともに、具体的な事務業務の精査を行いました。 ・2016年度からは、学校事務の効率化を実現するため、システム導入の検討を始め、2017年度に町田市教育の情報化推進委員会に学校運営支援システム部会を発足し、統合型校務支援システム導入スケジュールの作成等、導入に向けた具体的な取り組みを行いました。 ・2018年度は、2019年4月からの校務支援システム稼働に向けて業者選定とシステムの構築を行うとともに、学校教職員を含め、システムの仕様や運用等について検討を進めました。 		
課題	今後より一層の事務の効率化に向け、校務支援システムの活用を促進する必要があります。そのためには、実際にシステムを利用する学校の教職員の認識を深めるとともに、システム運用の具体的な取組等の検討にあたっては、教育委員会事務局と一体的に進めていく必要があります。		
今後の取組の方向性	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input checked="" type="checkbox"/> 事業完了		
	2014年度から事務事業の合理化や効率化の検討を進め、事務分担の標準化や事務事業の見直しを行い、校務支援システムの導入により校務の効率化の仕組み作りはできたため、本事業については、事業完了とします。 なお、校務支援システム全機能での運用開始は2020年4月のため、引き続き運用等の検討を進めます。また、システム導入による校務の効率化を実現するため、安定したシステム運用の取り組みや活用促進に向けた検討を進めていきます。		

重点目標6	特別支援教育の充実を図る
-------	--------------

重点事業2	特別支援教室(*)及び特別支援学級(*)の整備	所管課	教育センター
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として毎年小・中学校ともに1校ずつ特別支援教室を設置し、併せて特別支援教室に特別支援教育支援員を配置します。 ・地域の状況や対象となる児童・生徒数の状況を踏まえて、特別支援学級を整備します。 		
指標	特別支援教室及び特別支援学級の設置校数		
目標値 (目標達成年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教室:24教室(2018年度) ・特別支援学級:53教室(2017年度) 		
町田市教育プラン (2014年度～2018年度)の成果	<input checked="" type="checkbox"/> 目標を達成できた <input type="checkbox"/> 目標を達成できなかった		
	町田市教育プラン(2014年度～2018年度)では、特別な支援を必要とする児童・生徒に対して、特別支援教室を設置することを予定していましたが、東京都の動向を踏まえ、小学校全校に巡回型の通級指導学級であるサポートルーム(*)を設置しました。また、小学校延べ25校、中学校延べ11校に特別支援学級(知的障がい、自閉症・情緒障がい、肢体不自由)を設置しました。		

2018年度の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・国や東京都の動向、各地域や学校の状況、対象となる児童・生徒数の推移を把握し、特別支援学級の配置を検討します。 ・2019年度に情緒障がい等通級指導学級の巡回指導を開始する中学校4校の教室整備を行います。 		
2014年度～2018年度 の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都が2016年度から3年間かけて都内のすべての公立小学校にサポートルームを設置することを示したのを受け、町田市においてもこれまでの情緒障がい等通級指導学級から巡回型の通級指導学級であるサポートルームの設置を開始し、2018年度までに小学校全校に設置しました。これによりサポートルームを利用する児童が大幅に増加し、特別な支援を必要としている児童に対するサポートの充実を図ることができました。 ・小学校自閉症・情緒障がい固定学級を新たに2校(忠生小、本町田小)新設し、市内における自閉症・情緒障がい児童へのサポートを充実することができました。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を必要とする児童に対して、保育園・幼稚園から小学校への入学等で生活環境が大きく変化しても、途切れることなく必要な支援が受けられる体制を構築していくことが課題です。 ・教員や児童・生徒、保護者の特別支援教育への理解が深まる取組を継続的に行うとともに、特別支援学校とも連携を強化しながら町田市の特別支援教育への啓蒙を行っていきます。 		
今後の取組の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了		
	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校全校でサポートルームを3年かけて設置していきます。これにより、小・中学校を通じて特別な支援を受けることができるようになり、児童・生徒が必要なサポートを継続的に利用できるようになっていきます。 ・特別支援教室を利用する児童が大幅に増加していく現状に対応できるよう、拠点校の更なる分割など実施計画を再構築していきます。 ・特別支援学級の設置を進め、市内のどこにいても特別な支援を受けることができる環境を整備していきます。 		

重点目標6	特別支援教育の充実を図る
-------	--------------

重点事業3	人的支援活用制度(*)の再構築	所管課	指導課 教育センター
事業概要	現在実施している特別支援教育等に関する人的支援活用制度について、その目的や役割を整理し、より効果的な制度となるよう仕組みを再構築し、運用します。		
指標	制度の再構築		
目標値 (目標達成年度)	制度の再構築(2014年度)		
町田市教育プラン (2014年度～2018 年度)の成果	<input checked="" type="checkbox"/> 目標を達成できた <input type="checkbox"/> 目標を達成できなかった		
	通常の学級や特別支援学級における特別な支援が必要な児童・生徒の支援を行うため、特別支援教育支援員(*)を小・中学校全校に配置した。		

2018年度の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・学校サポーター事業を特別支援教育支援員事業に統合して運用を開始します。 ・特別支援教育支援員の小・中学校全校配置を行います。
2014年度～2018年度 の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・通常の学級や特別支援学級における特別な支援が必要な児童・生徒の支援を行うため、2018年度までに特別支援教育支援員を小・中学校全校に配置し、支援体制を確立しました。 ・2017年度から毎年、特別支援教室専門員の研修会を行い、特別支援教室の運営にあたっての専門性を高め、教員のサポートを充実させました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育教員の専門性を高めるため、障がい種別の研修会の実施や各学校の情報交換の場を設定していく必要があります。 ・特別支援教室が小学校は全校実施になり管理職を含めた研修会を行っていく必要があります。 ・人材の安定的な確保が課題となっています。
今後の取組の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了
	特別支援教育の経験の浅い教員が多く配置されている現状があり、教員・専門員・支援員の特別支援教育に対する専門性を向上させていくことが急務です。そのため研修会を効果的に実施できるように経験年数毎に応じた研修会の実施や内容の工夫について図っていきます。

重点目標7	家庭、地域、学校が協力した学校運営を推進する		
重点事業1	学校支援センター事業の推進	所管課	指導課
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と学校が連携した多様な教育活動を行うため、学校支援ボランティアを活用した授業や学校行事を進めます。 ・ボランティアコーディネーター(*)間の情報共有を行うため、学校支援ネットワーク(*)を全校に配置します。 		
指標	学校支援ボランティア活動者数		
目標値 (目標達成年度)	13,500人以上(2018年度)		
町田市教育プラン (2014年度～2018年度)の成果	<input checked="" type="checkbox"/> 目標を達成できた <input type="checkbox"/> 目標を達成できなかった		
	毎年、わずかながら増加傾向にあり、2018年度末における学校支援ボランティアの活動者数は、実人数で20,190人となりました。		
2018年度の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携担当教員とボランティアコーディネーターとの合同ミーティングを拡大し、より多くの地域で情報交換が行えるようにします。 ・地域連携担当教員を対象にした研修を実施し、地域連携についての理解や意識の向上を図ります。 ・「町田市教育講演会」のテーマを「地域協働の学校づくり」とし、家庭、地域、学校が協力した学校運営の推進に対する認識の共有・向上を図ります。 		
2014年度～2018年度の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・2014年度から2018年度の間、学校支援ボランティアの活動者は、実人数で3,506人増加しました。 ・2016年度に、ボランティアコーディネーター間の情報共有を行うためのネットワークシステム及び専用パソコンを全小・中学校に整備しました。 ・2017年度から、全小・中学校において、「地域連携担当教員」を学校の組織に位置付け、ボランティアコーディネーターと連携しながら「地域と連携した学校教育活動年間計画」を作成しています。 ・2018年度には、2地区において地区統括ボランティアコーディネーター(*)を指名し、地区内のボランティアコーディネーターの相談支援を開始しました。 ・地区統括ボランティアコーディネーター主催で地区ミーティングを2地区で開催し、地域連携担当教員等を含めて情報交換を行いました。 ・2018年度に、「地域協働の学校づくり」をテーマに教育講演会を実施し、事例や講義を通して、地域学校協働活動の推進に関する事例や認識を共有することができました。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校によって地域連携の取組状況に差があるため、取組が停滞している学校・ボランティアコーディネーターを支援をする必要があります。 ・多様な教育活動の継続的実施のため、地域人材の安定的な確保が求められます。 ・地域学校協働本部の設置に向けた検討が必要です。 		
今後の取組の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了		
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携担当教員とボランティアコーディネーターとの合同ミーティングを拡大し、より多くの地域で情報交換が行えるようにします。 ・地域連携担当教員を対象にした研修を実施し、地域連携についての理解や意識の向上を図ります。 ・コミュニティスクールや地域学校協働本部の整備を行い、地域ぐるみで子どもたちを育てる仕組みを強化します。 		

重点目標7	家庭、地域、学校が協力した学校運営を推進する
-------	------------------------

重点事業2	学校評価(*)の推進	所管課	指導課 教育総務課
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭、地域、学校が協働し、学校運営について組織的・継続的な改善を図るため、学校評価を推進します。 ・推進にあたっては、学校評価に客観性、公平性、妥当性をもたせ、小・中学校全体の教育水準の向上を図るため、全校共通の評価項目を設定します。 ・評価結果を分析し、学校運営の改善に活かすとともに、事務局内において必要に応じ、学校に対する支援や条件整備などを行います。 		
指標	全校共通の評価項目の設定		
目標値 (目標達成年度)	評価項目の設定(2014年度)		
町田市教育プラン (2014年度～2018 年度)の成果	<input checked="" type="checkbox"/> 目標を達成できた <input type="checkbox"/> 目標を達成できなかった		
	2014年度に全校共通の評価項目を設定し、自校の学校評価を客観的に分析できるようになりました。また、市全体の傾向を全校で共有することができました。		

2018年度の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・共通の評価項目の結果を各学校がどのように生かしたのかについて、「学校評価実施委員会」において分析し、検証します。 ・共通の評価項目の結果を、定例校長会等で周知するとともに、職層研修等でカリキュラム・マネジメント(*)の視点に立った学校改善の取組について指導・助言します。 		
2014年度～2018年度 の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・2014年度に共通の評価項目を設定し、2015年度から全校で共通の評価項目に基づく学校評価を実施しました。 ・2015年度に小・中学校長と事務局で組織する「学校評価実施委員会」を発足し、毎年度、評価結果の分析及び評価項目の検討を行いました。 ・2015年度からは、各学校において、「町田市立学校における学校評価実施要項」に則り、共通の評価項目を含めた学校評価を実施し、学校評価の結果を各学校のホームページや学校便り等で地域・保護者に広報するとともに、翌年度の教育課程に反映させました。 ・2018年度は共通の評価項目の結果について定例校長会で周知するとともに、教務主任等に対してカリキュラム・マネジメントの視点に立った学校改善の取組を推進し、2019年度の教育課程編成に生かすよう指導助言を行いました。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校で得た共通の評価項目の結果を、学校は翌年度の教育課程に反映し、教育委員会は教育施策に生かすように検討する必要があります。 ・学校評価における第三者評価の仕組みについて検討する必要があります。 		
今後の取組の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了		
	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校で得た共通の評価項目の結果を各学校がどのように生かしたのかについて、「学校評価実施委員会」において分析し、検証するとともに、項目の見直しについても検討していきます。 ・学校マネジメント力の強化に向け、外部専門家等を活用した学校評価の制度について検討していきます。 		

重点目標8	生涯学習を広める
-------	----------

重点事業1	若年層への学習機会の提供	所管課	生涯学習センター
事業概要	<p>・生涯学習センターが実施する学習事業への参加が少ない10代・20代の若年層を対象に、生活課題や学習ニーズに応じたイベントや講座などの事業を実施します。</p> <p>・若年層向けや、異なる世代が交流できるイベントや講座などの企画・運営に、若年層の人が主体的に携わる機会を提供します。</p>		
指標	若年層が企画・運営に携わるイベント、講座などの事業数		
目標値 (目標達成年度)	5事業(2018年度)		
町田市教育プラン (2014年度～2018 年度)の成果	<input checked="" type="checkbox"/> 目標を達成できた <input type="checkbox"/> 目標を達成できなかった		
	若年層が自らの興味や特技などを基に企画や提案、運営に携わる講座やイベントなどを2018年度に5事業実施し、目標を達成しました。		

2018年度の計画	<p>・若年層が企画・運営に携わるイベント・講座等を5事業実施します。</p> <p>・若者が企画・運営する各イベントにおけるアンケート調査を継続、強化するとともに分析を進め、若年層のニーズを反映させた事業を実施します。</p>		
2014年度～2018年度 の取組状況	<p>・2014年度2事業、2015年度3事業、2016年度・2017年度は4事業を実施しました。</p> <p>・2018年度は以下の5事業を実施しました。</p> <p>①「ひき町」＝ひきこもり経験のある若者グループが企画し、当事者・経験者が参加する交流会を概ね月1回のペースで通年実施しました。</p> <p>②「クリスマスイベント」＝子育て世代である家庭教育支援学級(*)受講生が企画運営し、保育園児が参加しました。</p> <p>③「学生活動報告会『ガクマチEXPO』」＝主に町田・相模原地域で活動する学生団体の企画・運営による活動報告会を実施しました。</p> <p>④「まちだ市民国際学」＝最終回は桜美林大学ゼミ生との協働企画により、学生の発表を題材に意見交換を行う交流会を実施しました。</p> <p>⑤「生涯学習センターPRチラシの作成」＝インターンシップ生の企画・デザインによるチラシを作成し、市内施設などでの配布に着手しました。</p>		
課題	2018年度の学生活動報告会アンケート結果では、「後輩にもつないでいきたい」等の感想が寄せられました。学生団体は個人としての在籍年数が限られているため、関係を維持していく仕組みが必要です。		
今後の取組の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了		
	次回、2020年3月実施予定の学生活動報告会までの間、1～2回程度学生団体との交流会を企画・実施し、事業実施体制の維持・拡大を図ります。		

重点目標8	生涯学習を広める
-------	----------

重点事業2	学習機会の充実に向けた連携の強化	所管課	生涯学習センター
事業概要	学習機会を提供する関係機関が相互に課題や情報を共有し、連携・協力による事業を展開していくための連絡調整組織を設置し、連携を強化します。		
指標	連絡調整組織の設置		
目標値 (目標達成年度)	連絡調整組織の設置、運営(2015年度)		
町田市教育プラン (2014年度～2018 年度)の成果	<input checked="" type="checkbox"/> 目標を達成できた <input type="checkbox"/> 目標を達成できなかった		
	2015年度から2018年度まで市役所各課のイベント、講座等の担当者を対象とする生涯学習連絡会「お悩み解決LABO」を継続的に開催し、その成果として子ども家庭支援センターや子どもセンターでの学生団体との連携事業実施に結びつけることができました。		

2018年度の計画	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、市役所各部署が実施しているイベントや講座を充実したものとするため、各部署の課題に応じた生涯学習連絡会を行います。 生涯学習連絡会(*)のあり方を含め生涯学習に関する庁内連携体制の整備の方向性について整理します。
2014年度～2018年度 の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 2014年度に実施した各課事業担当者を対象としたアンケート調査や情報交換会をベースに、2015年度からイベント・講座等の情報発信・広報戦略に関する連絡会として生涯学習連絡会「お悩み解決LABO」を立ち上げました。 2016年度からは特に学生との連携・協働をテーマとした連絡会として開催し、2017年度には、成果物として「学生との事業連携ポイント集」を作成しました。 2018年度は、生涯学習に関する庁内連携体制の整備の方向性について整理し、町田市社会福祉協議会と連携して、学生団体も参加した連絡会を開催しました(10部署13名参加)。内容としては、2017年度に学生団体との事業連携として実現した子ども家庭支援センターと子どもセンターつるっこの事例について、実際に携わった職員と学生による事例報告を行い、多くの参加者から「参考になった」とのアンケート結果を得ることができました。
課題	生涯学習連絡会「お悩み解決LABO」は、開設してから4年が経過していますが、参加者アンケートでは、学生団体や大学との連携・協働に関する要望が依然として多く寄せられており、引き続きこれらのニーズを踏まえた運営をしていく必要があります。
今後の取組の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了
	引き続き、学習機会を提供する庁内各部署間の連携を強化し、連絡調整を進めていくため、参加者アンケートの結果を分析し、各部署の課題に応じた生涯学習連絡会「お悩み解決LABO」を行います。

重点目標8	生涯学習を広める
-------	----------

重点事業3	生涯学習情報の充実	所管課	生涯学習センター
事業概要	幅広く行われている学習事業の中から、市民が自分に合った学習機会にめぐり合えるよう、学習情報を随時提供することができる生涯学習のポータルサイト(*)を構築します。		
指標	生涯学習情報ポータルサイトの構築		
目標値 (目標達成年度)	構築完了(2015年度)		
町田市教育プラン (2014年度～2018年度)の成果	<input type="checkbox"/> 目標を達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 目標を達成できなかった		
	生涯学習情報を効果的に発信するため、町田市ホームページの掲載内容を見直すとともに「まちだ子育てサイト」との連携を開始しました。このことにより、子育て世代が家庭教育に関する情報を得ることに繋がりました。また、従前から、発行している町田市講座イベント情報誌「生涯学習NAVI 好き！学び！」は、紙面を改善し配布箇所の見直しを行いました。ポータルサイトの構築とは異なる形となりましたが、上記のように生涯学習情報の充実に努めました。		

2018年度の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てサイトを通してどの程度の方が家庭教育に関する事業に参加しているか、情報掲載の効果について検証します。 ・アンケート調査に基づき、「生涯学習NAVI 好き！学び！」の取り扱う情報の範囲や配布箇所などについての見直しを行います。
2014年度～2018年度の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ポータルサイトの構築に関し、2014年度から2015年度にかけて、先進市の取組について調査・研究を行い、関係各課と協議・検討を進めましたが、町田市ホームページの掲載内容の見直しや既存のサイトの活用によって代替することになりました。 ・2016年度は「まちだ子育てサイト」をはじめ各課で作成するサイトに関する情報収集を行い、活用に向けた検討を行いました。また、町田市ホームページの掲載内容の見直しを行いました。 ・2017年度は、家庭教育に関する情報について「まちだ子育てサイト」への掲載を開始しました。また、「生涯学習NAVI 好き！学び！」についてのアンケート調査を実施し、紙面の改善を行いました。 ・2018年度に行った「まちだ子育てサイト」に関する検証では、事業参加者のおよそ半数がサイトを通して参加につながっているとの結果を得ました。また、「生涯学習NAVI 好き！学び！」の配布箇所について見直しを行い、新たに法政大学内スロワールドカフェと市庁舎2階キッズスペースでの配布を開始しました。
課題	2017年9月に実施した「町田市生涯学習に関する市民意識調査」では、学習情報の入手先として「インターネット」の利用者が最も多いため、この結果を踏まえて新たな情報発信媒体の活用について検討する必要があります。
今後の取組の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了
	<ul style="list-style-type: none"> ・町田市ホームページモバイル(スマートフォン版)において町田市講座イベント情報誌「生涯学習NAVI 好き！学び！」の利用促進を図ります。 ・SNSを利用した情報発信や、他団体のホームページなど外部の情報発信媒体との連携を図ります。

重点目標8	生涯学習を広める
-------	----------

重点事業4	学習成果を活かす仕組みの充実	所管課	生涯学習センター
事業概要	学習者が身に付けた知識や経験、技術などを地域で活かし、学習者が学び合う機会として、生涯学習センターまつりやフレッシュコンサートなどの開催、生涯学習ボランティアバンク(*)の普及を行います。		
指標	生涯学習ボランティアによる活動件数		
目標値 (目標達成年度)	50件(2018年度)		
町田市教育プラン (2014年度～2018年度)の成果	<input type="checkbox"/> 目標を達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 目標を達成できなかった		
	5年間の実績では2015年度の29件が最高で、2018年度の活動件数は10件にとどまり目標を達成することはできませんでした。		

2018年度の計画	町内会、自治会など地域のネットワークを活用するなど生涯学習ボランティア制度の新たな周知方法を検討し、実施します。
2014年度～2018年度の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・2014年度から継続的にパネル展示や生涯学習ボランティア一日体験講座を行い、ボランティアバンクのPRを行いました。 ・2018年度は、生涯学習センターまつりにおいてパネル展示と、科学工作、マジックなど6コースの生涯学習ボランティア一日体験講座を実施しました。 ・2018年度に町内会・自治会への周知について市民協働推進課と協議した結果、2019年度に町内会・自治会の代表者宛てにボランティアバンクの利用について通知することとなりました。また、2019年3月に町田市社会福祉協議会ボランティアセンターと情報交換を行いました。
課題	広報まちだへの掲載や各市民センター等への利用ガイドの配布、生涯学習ボランティア一日体験講座の実施など、制度の普及・啓発を行いました。利用件数の増加にはつながっていないため、制度の周知方法の見直しを行う必要があります。
今後の取組の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了
	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会、自治会など地域のネットワークを活用するなど生涯学習ボランティア制度の新たな周知方法を検討し、実施します。 ・学校教育部学校支援ボランティア、町田市社会福祉協議会ボランティアセンターとの情報の共有について研究するとともに、他の先進自治体の取り組みを参考に制度の普及に向けて検討します。 ・制度の普及・啓発を行うため実施している生涯学習ボランティアバンク一日体験講座の内容を見直します。

重点目標8	生涯学習を広める
-------	----------

重点事業5	地域活動の支援	所管課	図書館
事業概要	地域の課題解決に取り組む団体に対し、レファレンス(*)機能を活かして資料や情報の提供を行います。		
指標	支援の実施		
目標値 (目標達成年度)	段階的实施(2015年度)		
町田市教育プラン (2014年度～2018 年度)の成果	<input checked="" type="checkbox"/> 目標を達成できた <input type="checkbox"/> 目標を達成できなかった		
	鶴川駅前図書館では、2015年度から鶴川地区協議会が行う事業に関連する図書資料を提供するなど、図書館のレファレンス機能を生かした取り組みを行いました。2017年度からは、学校など地域で活動するボランティアを対象にした読み聞かせボランティア講座を行って、地域で行われている子ども読書活動を図書館が支援しました。また、2018年度からは、市民が地域で活動するための学習会「まちだ探・探(たん・たん)ゼミナール」を生涯学習センターと共に実施するなど、様々な取組を通じて、地域活動の支援を行うことができました。		

2018年度の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で本に関する活動を行うボランティアを育成するとともに、活動の支援を行います。 ・継続して図書館のレファレンス機能のPRを行います。
2014年度～2018年度 の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年度から鶴川地区協議会が行う「3水スマイルラウンジ(和光大学ポプリホール鶴川の交流スペースで毎月第三水曜日に開かれる地域向けイベント)」への支援として、鶴川駅前図書館に、プログラムに関わる資料を展示する特集コーナーを設置しました。事業に関連する図書資料を提供するなど、図書館のレファレンス機能を生かした取り組みを行っています。 ・2017年度からは、学校など地域で活動するボランティアを対象にした読み聞かせボランティア講座を行って、地域で行われている子ども読書活動への支援を行っています。 ・2017年度は、鶴川駅前図書館で認知症カフェと図書館のコラボ(認知症をテーマにした本の特集コーナーを設定するなど)を行いました。 ・2018年度は、鶴川駅前図書館で「鶴川deハロウィン2018」に合わせて、本を讀んで商店街へ案内する「店主のおすすめの本コーナー」を設置しました。 ・2018年度からは、市民が地域で活動するための「まちだ探・探(たん・たん)ゼミナール」で、図書館のレファレンス機能を活かした学習会を行うなど、地域活動の支援を行っています。
課題	現在行っている地域活動の支援だけではなく、今後もさまざまな方法で、図書館が地域の課題を解決することや、地域のコミュニティ形成を支援することに役立つ必要があります。
今後の取組の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了
	引き続き、図書館が地域の課題を解決することや、地域のコミュニティ形成を支援することに役立つために、各地域図書館で地域や団体とコミュニケーションを取りながら、さまざまな取組を行います。

重点目標9	図書館の利便性を高める		
重点事業3	地域資料の活用の推進	所管課	図書館
事業概要	これまで蓄積してきた地域資料のデジタルアーカイブ化(*)を進め、地域での活用を推進します。		
指標	イメージデータ作成点数		
目標値 (目標達成年度)	50,000点(2018年度)		
町田市教育プラン (2014年度～2018 年度)の成果	<input type="checkbox"/> 目標を達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 目標を達成できなかった		
	他自治体における先進事例の状況や、財源確保のための補助金の制度の調査を行いました。また、地域資料をデータ化するための仕様書を作成し、予算規模を検討するなどしましたが、イメージデータを作成するまでには至りませんでした。		
2018年度の計画	事業を開始するための財源確保について、引き続き調査を行います。また、デジタル化対象資料の見直しを行い、優先度の高い資料の選定をします。		
2014年度～2018年度 の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・2016年に先進市の視察を行って、デジタルアーカイブ化に向けた調査を実施しました。また、2017年度には、東京都総務局が募集する交付金の申請を検討しましたが、財源確保には至りませんでした。 ・2018年度は、イメージデータ作成と公開について、対象資料を絞り込んで具体的に検討するなどしましたが、地域資料の活用の推進はできませんでした。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の貴重な資料の活用に向けて、対象資料の選別、優先順位付け、公開方法等、具体的な工程計画を決定する必要があります。 ・デジタル化して公開するための導入費用とランニングコストを算出する必要があります。 		
今後の取組の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了		
	町田市には、文学館、自由民権資料館、考古資料室など、地域の資料を保有する施設が多くあります。関係部署と情報共有を図るとともに、民間の補助制度についても調査・研究を行っていきます。		

重点目標10	文化資源の活用を推進する
--------	--------------

重点事業1	遺跡の整備	所管課	生涯学習総務課
事業概要	整備が必要な市内の主要な遺跡の保存、公開に向けて、設計及び整備を行います。		
指標	高ヶ坂石器時代遺跡整備完了		
目標値 (目標達成年度)	高ヶ坂石器時代遺跡整備完了(2018年度)		
町田市教育プラン (2014年度～2018 年度)の成果	<input type="checkbox"/> 目標を達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 目標を達成できなかった		
	高ヶ坂石器時代遺跡を構成する3ヶ所遺跡のうち、稲荷山遺跡は2016年度に整備工事が完了し、一般公開を行いました。牢場遺跡は2017年度に見学施設が完成し、一般公開を行うとともに用地買収を行いました。八幡平遺跡は敷石住居の復元展示と園路の一部が完成しましたが、四阿の建築及びガイダンス施設の設計・建設には至りませんでした。		

2018年度の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・牢場遺跡・八幡平遺跡の公園整備を行います。 ・牢場遺跡の用地買収を行います。
2014年度～2018年度 の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・外部有識者で構成される整備検討委員会を開催し、2014年度に整備基本設計、2015年度に整備実施設計を作成しました。 ・2016年度に稲荷山遺跡及び八幡平遺跡の工事に着手し、稲荷山遺跡については一般公開を行いました。 ・2017年度に牢場遺跡の工事、一般公開を行いました。 ・2018年度に牢場遺跡史跡公園用地買収、牢場遺跡の工事、八幡平遺跡の工事を行いました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・施設整備事業は多額の費用を要し、市の財源負担が大きいため、国や都の補助金採択や市の財政状況の影響を大きく受ける事業です。 ・史跡整備に際し、国や都との調整の他、地元町内会への整備状況の説明などが必要となります。 ・ガイダンス施設建設に向けて、設計を行う営繕課、敷地の管理者である公園緑地課など関係部署との協議や、ガイダンス施設の機能の検討が必要となります。
今後の取組の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了
	<ul style="list-style-type: none"> ・史跡整備に要する国・都からの補助金確保に努めます。 ・整備検討委員会に諮り、国・都から助言を受けながら、整備を進めます。 ・整備完了後の活用について、検討を進めます。

重点目標10	文化資源の活用を推進する
--------	--------------

重点事業2	文学館の企画展示の充実	所管課	図書館
事業概要	魅力的な企画展示、関連イベント、ワークショップなどを企画・開催するとともに、各々の展覧会に合った広報活動を行います。		
指標	年間文学館展覧会観覧者数		
目標値 (目標達成年度)	25,000人(2018年度)		
町田市教育プラン (2014年度～2018 年度)の成果	<input checked="" type="checkbox"/> 目標を達成できた <input type="checkbox"/> 目標を達成できなかった		
	2018年度の観覧者数は27,066人となり、目標を上回る結果となりました。5カ年の成果としては、文学愛好者のニーズに応える本格的な文学展のほか、親子で楽しめる絵本原画展や文学の周辺領域としての写真・美術・漫画を取り上げた展覧会を実施することにより、様々な年代・嗜好の来館者を獲得することができました。		

2018年度の計画	より多くの方々に文学館を知ってもらうために、出張事業の実施やSNSの活用に取り組み、来館者の満足を得られる魅力的な企画展やイベントを実施します。
2014年度～2018年度 の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校へ出前授業に出向き子どもたちに文学館を知ってもらう活動を継続的に行うとともに、一般市民に対しては、市民センター等で展覧会のPR展示を行い広報に努めました。 ・開館10周年にあたる2016年度は、夏季展覧会で子どもたちに人気の妖怪を取り上げたことにより開館以来最多の入館者数を記録し、イベントでは阿川佐和子氏など著名な講師を招く等、話題性のあるイベントを実施して広く市民の関心を集めることができました。 ・SNSの活用が可能となった2017年度からは、Twitterによるリアルタイムの情報発信を行うことにより、より多くの方々への情報伝達が実現できました。
課題	「町田市5カ年計画17-21(町田市行政経営改革プラン)」において「文学館のあり方の見直し」を挙げています。2019年2月に、生涯学習審議会からの答申を受け、見直しを実現するための「町田市民文学館のあり方見直し方針」を策定しました。この方針において確認した文学館の存在意義を踏まえ、見直しにむけた取組を着実に遂行することが必要です。
今後の取組の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了
	町田ゆかりの作家や文字・ことばの魅力を伝えることに加え、より多くの市民、特に若年層に文学やことばに親しんでもらえるよう、柔軟で多様な展覧会やイベントを実施していきます。

【重点事業以外の事業】

事業名	体力の向上	所管課	指導課
事業概要	国や東京都の体力調査の結果などから、小・中学校の児童・生徒の体力の状況を分析し、小・中学校全体で体力向上施策を推進します。		
指標	1週間の運動時間が7時間以上の中学校2年生の割合 ※指標、目標値は、「町田市5ヵ年計画17-21」に基づき設定しています。		
目標値 (目標達成年度)	男子85.0%、女子60.0%(2021年度) ※現状値(2015年度)男子75.8%、女子48.6%		

2018年度の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上戦略会議において、9年間を見通した体づくり運動の充実に向けた指導資料を作成します。 ・体力向上フロンティア校で取り組んだタグラグビーを基にした易しいゲームや、中学校での意欲や技能を高めるウォーミングアップを全校で実施していくために、研修会を実施するとともに、指導資料の改善・充実を図ります。 ・「町田っ子アクティブ・カレンダー」を授業や日常生活で活用できるよう改善します。 		
2018年度の取組状況	<input checked="" type="checkbox"/> 計画通りに実施できた <input type="checkbox"/> 計画通りに実施できなかった		
	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校教員を対象に、意欲や技能を高めるウォーミングアップの工夫に関する研修を1回実施し、21人が受講しました。また、ウォーミングアップの指導に役立つ映像資料の案を作成しました。 ・体力向上フロンティア校において、体づくり運動領域の授業改善に取り組みました。公開授業と協議会、実技研修会を全5回実施し、54人が参加しました。 ・小学校教員を対象に、タグラグビーを基にした易しいゲームの公開授業と協議会、実技研修会を全5回実施し、75人の教員が受講しました。また、全42小学校において、タグラグビーを基にした易しいゲームの学習を実施しました。 ・「町田っ子 アクティブ・カレンダー小学校版・中学校版」の内容を改善し、2019年度版の案を作成しました。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲や技能を高めるウォーミングアップの映像資料を早急に完成させ、中学校保健体育科の教員に周知する必要があります。 ・全小中学校で体づくり運動の充実を図るための具体的な取組について、2019年度の体力向上戦略会議で検討する必要があります。 ・1週間の運動時間が7時間以上の中学校2年生の割合は、2018年度の体力調査において、男子が80.6%、女子が56.1%であり、2015年度比男子で4.8ポイント、女子で7.5ポイント増加しています。しかし、目標値との乖離があるため、運動時間を増やすための具体的な取組を新たに検討する必要があります。 		
今後の取組の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了		
	<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上推進プランに基づき、子どもたちが体を動かす機会を増やしていきます。 ・9年間を見通した体づくり運動の充実に向けた具体的な取組を検討します。 ・小学校でのタグラグビーを基にした易しいゲームや中学校での意欲や技能を高めるウォーミングアップを全校で引き続き実施します。 ・子どもたちが生涯を通じて運動に親しみきっかけを作るため、町田市を6地区に分け、地区ごとに「体力向上パワーアップDAY！」を開催します。 ・運動を通して、学校間の交流、体力や連帯意識の向上を図るため、市内全ての小学校第6学年児童が参加する「小学校連合体育大会」の開催に向けたプレ大会を野津田陸上競技場で実施します。 		

【重点事業以外の事業】

事業名	えいごのまちだ事業	所管課	指導課
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校英語のカリキュラム開発や放課後英語教室の実施など、先進的な取組を更に発展させた町田市ならではの英語教育事業を展開します。 ・コミュニケーションを積極的に図る態度やコミュニケーション能力の育成に重点をおいた取組を進めます。また、自然の中でのAll Englishのアクティビティや、学校以外で英語を自発的に学べる場の創出等。英語を楽しく学べて、英語学習の動機づけとなるようなプログラムを展開します。 		
指標	「英語の時間が楽しいと感じる」と回答した小学校5年生の割合		
目標値 (目標達成年度)	90%(2023年度) ※参考値(英語教育推進リーダー配置校の2017年度の小学校4年生の値):本町田東小学校63%、鶴間小学校100%		

2018年度の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT(外国語指導助手)の授業時間数を増やします。また、英語の授業以外の時間においてALTと触れ合う時間を設定し、学んだ英語を活用できる機会を増やします。 ・MEPS(巡回型英語指導員)を市内小学校8校に派遣し、授業の支援を行います。 ・放課後英語教室市内小学校16校にて実施します。 		
2018年度の取組状況	<input checked="" type="checkbox"/> 計画通りに実施できた <input type="checkbox"/> 計画通りに実施できなかった		
	<ul style="list-style-type: none"> ・2018年度に実施した小学校5年生の意識調査の結果では、「英語の授業を楽しみにしている」が67.2%、「英語で歌ったり、リズムにのって話す練習をしたりすることは楽しい」が75.7%、「英語でゲームするのが楽しい」が88.8%となりました。 ・ALT(外国語指導助手)を小学校3・4年生は年間24時間、5・6年生は50時間配置し、休み時間や給食の時間にも活用するなど、自然に英語に親しめる環境を整えました。 ・各学校の英語の授業を指導及び助言するMEPS(英語授業指導員)を3名雇用し、小学校8校を対象に巡回指導しました。 ・小学校放課後英語教室を16校で実施しました。 ・中学校における「えいごのまちだ事業」として、ALTの配置時間数の増加、GTEC(スコア型英語4技能検定)の導入について検討しました。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、学校や学校以外の場でも、児童生徒が英語に触れる、英語を活用する環境を整える必要があります。 ・小学校の担任がALTに頼ることなく自信をもって授業ができるような研修や支援が必要です。 		
今後の取組の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了		
	<ul style="list-style-type: none"> ・町田市教育プラン2019-2023に基づき、えいごのまちだ事業を推進します。2019年度は以下の取組を進めます。 ・小学校放課後英語教室を29校で実施します。 ・MEPSを9名雇用し、27校で巡回指導を実施します。 ・中学校のALTを年間20時間×学級数で配置します。 ・中学校1年生を対象にGTECを実施し、結果を授業改善に生かします。 ・「中学校外国語(英語)導入期カリキュラム」を活用し、小中学校の接続を円滑に進めます。また、2019年度中に改訂を行います。 ・(仮)English camp in まちだなど、学校外で英語に親しむ機会を検討します。 		

5 点検及び評価に関する有識者からの助言

岡田 行雄（帝京大学大学院 教職研究科 教授）

1 5年間の重点事業の評価について

2014年度から2018年度までの町田市教育プランに関わる重点事業について、私は助言者として大学教員の立場から教育施策について様々な意見を述べさせていただきました。その中で、教育委員会事務局の各部署の方々が真摯に施策の実現に取り組まれ、目標を達成しようとする姿勢に触れることができました。とりわけ、私が述べた意見が早くも翌年には実現されているなど、PDCAサイクルを基に早急に改革しようとされている姿勢を感じ取ることができました。この5年間の事業の総括評価を見ると、重点事業として挙げられている23項目中16項目で目標が達成されていました。目標が達成されていない項目には、いじめ、不登校など全国の学校が取り組み解決に至っていない問題が含まれており、解決の困難さを改めて認識するものとなったと思います。目標達成率は72%であり、いじめ・登校等の解決困難な課題を考慮すれば、この5年間の事業に対する取り組みについて、私は大きな成果を上げたとは評価できると考えています。特に、教育相談体制の構築、暴力行為への対応などについては特筆すべきものがあつたと受け止めています。

2 新たな観点からの課題の検討

前述した、いじめ、不登校、暴力行為（これは専門チームの助言や支援が得られる仕組みを立ち上げ、目標を達成した。）などの問題は、全国的にも高い水準で発生率が維持されており、様々な関係諸機関と連携しながら学校は問題解決に向けて努力を続けています。

また、全国の小中学校が学力向上についても多様な取り組みが行われており、成果を上げている学校もありますが、多くの学校においては、それぞれに掲げる目標値の達成は難しいのが現状であると考えています。

このようなことから、私は新たな視点でいじめ、不登校、学力向上について検討した方が良いと考えています。例えば、Universal Design for Learningの視点で学習環境や教室環境を整えること、児童生徒の間にある「同調圧力」を排除し、「一人一人が違う方が良い」という学級風土、学校風土を創ることなど、学校文化の在り方に関する研究をさらに進めてはどうかと考えます。

3 学習意欲の向上について（生徒が大学に行き、授業を受ける取り組みについて）

私はJST（日本科学技術振興機構）が主催している「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」の推進委員として仕事をしています。北海道から沖縄まで、全国各地にある大学が、女子中高生を対象に、理科系の学習・進路に対して興味関心を高めるために様々な取り組みを計画し、実践しており、私はその推進役として応募してきた大学と連絡を取りながら事業の推進を図っています。このような各大学の取り組みに対して積極的に参加するよう、学校を通して生徒に呼び掛けてはどうかと考えます。今年度は池袋にある立教大学が夏季休業期間を利用して体験活動を提供します。参加生徒は大学で、大学の教員から授業を受けるなど、日常とは大きく異なる体験をすることができ素晴らしい時間となるようです。東京女子医科大学なども毎年、同様の取り組みを行っており生徒の理系進路選択に寄与しています。大学で学ぶ機会の提供も重要であると考えます。

財政的な課題を踏まえつつ、教育委員会の識見及び積極的対応がより求められると考えます。必要な予算をきちんと配当する姿勢がまず必要です。以下、各重点目標にそって助言致します。

重点目標 1：①ライフ・マネジメントやSDGs、学校3.0等、新たな枠組みに基づく小中一貫カリキュラム開発が今後の課題であり、これまでの枠を見直すことが必要。②「できる力（コンピテンシー）」としての学力の見直しに伴い、ICT活用・プログラミング学習・英語学習・読書活動・表現活動、探究的学習など、社会に開かれた教育課程と学校・社会が協働する方向を一層推進する。

重点目標 2：①いじめ・不登校・虐待・問題行動など、新たな局面に入り、現在の教育相談体応だけでは難しい。②地域学校協働活動推進事業とともに、第三者機関の活用も検討・推進する。

重点目標 3：①教育環境整備の状況を学校や市民に一層周知する。施策や進捗状況などの情報発信をSNSやQRコードなどを活用しアクセスしやすくする。②公共施設再編計画や適正配置に伴い、統合化・複合化による利便性やバリアフリー化、施設設備の充実などメリットを示し、市民の理解を得る。③学校図書館の地域図書館化を図り、司書配置で市民の貸出・返却を行う。

重点目標 4：①防災マニュアルなどについて、持続的な見直し・改善を実施。②防災教育ディを全市的取組とし、地域防災訓練など公共施設や地域と一体となった実践的な活動を実施。

重点目標 5：①クロームブックによる教員の校務運用による働き方改革の推進を図り、教育活動への反映について企業等とも連携し、開発・改善を進め、町田市の特色ある取組とする。

重点目標 6：①当該児童生徒の継続的な学習支援のため、サポートルームや特別教育支援員配置の一層の充実を図る。また、必要に応じて外部機関との連携を図り、教材開発や指導法の工夫、保護者への支援と連携の仕方など、関係者へのOJTを充実させる。

重点目標 7：①学校支援センター事業を地域学校協働活動推進事業に移行することにより、学校・地域・生涯学習・社会教育の一体的な推進を図る。②教員の働き方改革に伴い、クロームブックの活用とともに、学校における留守番電話やメール配信の時間的制限など、地域・家庭への理解・啓発を教育委員会が頑張って推進。③共通指標での保護者・児童・生徒評価を実施。

重点目標 8 : ①中高生が地域の企業等とともにビジョンから企画・運営に参画できるようにする。②地域の諸課題解決を図る複数の生涯学習講座を設置する。生涯を通して学び続ける体制づくりのため生涯学習センターを中核に、図書館・公民館・学校など「学びの場」を充実させ、Zoom や SNS 等を活用して、多様な「ラーニング・コミュニティ」を組織する。③学んだ成果を指導者として生かせる仕組みを強化し、ソーシャル・リソース（社会関係資本）の充実を図る。

重点目標 9 : ①図書館や文学館、資料館などの充実を図り、地域におけるアーカイブ機能やレファレンス機能を確保し、全市民が読書活動や表現活動を行えるよう各「学び」施設の機能を一層高める。②文化資源の活用など、企業との連携・協働・スポンサーシップなどをさらに活性化し、地域受託も含め、民間の指定管理者制度の効果的活用も更に検討していく。

重点目標 10 : 文学館やデジタル・ミュージアムの機能を最大限に活用し、文学からメディア、そして広範なリテラシー力の育成を図る。

その他 : ①体力・健康・スポーツ・食事・睡眠などの健康教育・学習に関するトータルな教養講座を全市で展開する。②大地沢やひなた村などの施設を最大限に活用し、英語合宿やプログラミング学習、探求的な学習活動など最先端の学びを教育委員会主導で展開する。

なお、基本方針に関して、1 子供達の一層の自主・自律を促すと共に支え合う力の育成、2 地域における学校力の向上、3 家庭・地域・学校の連携・協働・共生、4 学校・地域社会のソーシャル・リソース（社会関係資本）の活用、を特に要望するとともに、学校教育（教職員）と生涯学習（保護者・地域の市民）の相互関係を充実させ、新しい町田市の教育を推進されるよう期待致します。

前山 世津（2018年度町田市立中学校PTA連合会会長）

町田市教育委員会が、町田市教育プランを策定し、実行し、見直しながら、子ども達のよりよい学習環境を整え、心身の健やかな成長をめざし、市民の生涯学習の充実を図って活動してくださっていることに、感謝いたします。2019年度からは新しい教育プランに移行したとのことですが、2018年度の点検について、保護者の立場として気が付いたことを述べさせていただきます。

<重点目標1について>

- ・食育については、小学校は給食の献立の工夫などで、子ども達に食に対する興味を持たせる取り組みができていていると思われる。中学校では、弁当給食と家からの弁当を選べるという恵まれた状況にあるので、知らず知らず食に対する感謝の気持ちが持てているのではないかと思う。
- ・学力向上プランについてはICTの導入や英語の取り組み、協同的探究学習など、基礎学力の向上や授業改善に取り組まれているが、一部の学校では授業時間数を確保するため、読み聞かせや読書などの時間が少なくなった状況があると聞いており残念に思う。小学校での読み聞かせは、子どもの心を育て、本に興味を持つことで中学校での読書につながり、生涯を通して本と関わりのある人生を送れると思う。読み聞かせで培われる想像力は、他人の気持ちを思いやる心にもつながり、いじめなどの対策にもなると思うので、図書館の冊数の確保と合わせて、考慮をお願いしたい。

<重点目標2および6について>

- ・いじめ、不登校、暴力については、原因も多様で、学校だけで解決できるものではなく、家庭、社会との連携や、環境改善が必要な中、早期発見の工夫や相談できる環境を整えてよく対応してくれていると思う。特別支援教育も含めて、子どもに向き合う人材の専門性やスキルアップが大事なので、研修や待遇など、今後も向上されることを願う。

<重点目標5および7について>

- ・校務の効率化を図り、教員の負担を減らしていくことは大事だが、近年、部活動の運営も危うく、子ども達の活動・運動の機会が確保できない状況も残念に思う。家庭の経済状況に関わらず活動ができる部活動という日本の文化は、貴重なものだと思うので、教員だけに負担がいかないように、部活指導員や外部指導員をもう少し多く活用できるような体制づくりをしてくださるとありがたい。

<重点目標9について>

- ・図書館については、蔵書の充実やデジタルアーカイブ化などのソフト面ももちろんだが、立地、交通など、実際に利用する人の利便性がもっと重要視されるべきだと思う。知識を得るだけでなく、人が集う場所としても広い意味で生涯学習に欠かせない施設なので、今後も住みやすい町としての魅力をあげるため、充実させていってほしい。

【用語の解説】

【か】

● 学校支援ネットワーク

ボランティアコーディネーターの活動を支援するために開発した情報交換システムのこと。ボランティア登録やスケジュール管理、日報の作成といった事務処理をパソコン上で行うことができる。

● 学校評価

学校評価の目的は、各学校が、自らの教育活動や学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ることである。教職員による自己評価及び保護者等による学校関係者評価の実施とその結果の公表・説明により、学校の説明責任を果たすとともに、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めている。

● 家庭教育支援学級

地域における家庭教育・子育て支援の「担い手」の育成を目的とした学級で、家庭教育に意欲や関心のある子育て中の方を対象としている。2年間のグループ学習を通じて、家庭教育の支援に役立つ知識や技能を習得し、学んだことを「担い手」として発揮してもらうことを目指している。

● カリキュラム・マネジメント

学校の教育目標の実現に向けて、子どもや地域の実態を踏まえ、教育課程（カリキュラム）を編成・実施・評価し、改善を図る一連のサイクルを計画的・組織的に推進すること。

● 協同的探究学習

東京大学大学院教育学研究科教授 藤村宣之教授が提唱する指導理念のこと。思考力・判断力・表現力の育成を目指し、個別探究、協同探究、個別探究の3つのプロセスで、児童・生徒一人一人の思考を深めることができる。文部科学省が推進しているアクティブ・ラーニングに位置付けられる。

● 心のアンケート

小・中学校の全児童・生徒を対象とした、いじめを受けたかや目撃したかなどを聞き取るアンケートのこと。

【さ】

● サポートルーム

通常の学級に在籍する発達障がい又は情緒障がいのある児童・生徒を対象として、発達障がい教育を担当する教員が各学校を巡回して指導することにより、これまで情緒障がい等通級指導学級で行ってきた特別な指導を児童・生徒が在籍校で受けられるようにしたもの。制度上は、国の通級による指導に位置付けられるものであり、対象者及び指導内容はこれまでの通級指導学級と同様である。

● 生涯学習ボランティアバンク

生涯学習に関する様々な知識や経験、特技などをもった方にボランティアとして登録していただき、市内で活動している学習グループに紹介する制度のこと。

● 生涯学習連絡会

庁内各部署のイベント、講座・講演会などの担当職員が参加し、情報交換、課題の共有や解決、事業連携を目的としてワークショップ等を行う連絡調整組織のこと。

● 小中一貫町田っ子カリキュラム

規範教育、キャリア教育、食育、英語教育の4つの領域について、どの小・中学校でも効果的な学習ができるように、2008年に作成された小中連続のカリキュラムのこと。学習指導要領の改訂を受けて、2014年度からは、小中一貫町田っ子カリキュラムを、規範教育、キャリア教育、食育の3つの領域とし、それぞれの領域において新たな小中連続のカリキュラムを実施する。

● 人的支援活用制度

専門の人員を派遣し、児童・生徒の学習活動等を支援する制度のこと。特別支援教育に関する専門の人員には、肢体不自由の児童・生徒が学校生活を送る際に必要な支援を行う介助員や特別支援教育支援員等がいる。

● スクールカウンセラー

教育機関において、児童・生徒などが抱える悩みに対し、主にカウンセリングを通して解決を図る専門家のこと。臨床心理に関する専門的知識や経験をもつ学校外の専門家であり、非常勤職員として1校あたり平均週1回4～8時間勤務している。

● スクールソーシャルワーカー

教育機関において、児童・生徒などが抱える悩みに対し、主に当該児童・生徒が置かれた環境への働きかけや関係機関等とのネットワークの構築など、福祉的な支援方法を用いて解決を図る専門家のこと。教育の分野に加え、社会福祉に関する専門的な知識や技術をもつ者であることが多い。

【た】

● 地区統括ボランティアコーディネーター

地域との連携強化や人材の有効活用による学校教育の充実を図るため、将来的に町田市立小中学校を10の地区に分けることを想定している。地区統括ボランティアコーディネーターは各地区に配置され、地区内の情報共有を目的に地区ごとの地域ミーティングを開催し、連絡・調整・人材育成を行うことで地区内の連携を強化する役割を担う。

● 適応指導教室

心理的な要因で不登校となっている児童・生徒に対して、学校復帰を目的として少人数指導を行っている教室で、教育センター内に設置されている。町田市では、児童向けの「けやき教室」と生徒向けの「くすのき教室」がある。

● デジタルアーカイブ化

博物館、美術館、公文書館、図書館等の収蔵品をはじめ、有形・無形の文化資源等をデジタル化して、これを収集、保存・管理、公開などを行うこと。

● 特別支援学級

町田市では、以下の2つを指す。

【固定学級】通常の学級での学習では十分にその効果を上げることが困難な児童・生徒のために編成された学級のこと、障がいのある児童・生徒の特性にふさわしい指導計画を作成し、指導を行う。

【通級指導学級】通常の学級での学習におおむね参加できるが、一部特別な指導を必要とする児童・生徒に対して、特別な場で特別な指導を行う。

● 特別支援教育支援員

特別支援教室を整備した学校に配置し、学級担任教諭の補助者として、特別な支援が必要な児童・生徒の介助、安全への配慮を行い、学校生活を支援する。

● 特別支援教室

2014年3月に策定した町田市教育プランの中では、通常の学級等に在籍する特別な配慮を必要とする児童・生徒に対し、カーム・ダウン（落ち着かせること）や相談を行うための専用の教室のことを指す。

【は】

● ボランティアコーディネーター

学校の教育活動を地域の側から支援するための調整役を担う地域協力者のこと。学校と地域の間に入り、地域の人材の紹介、授業の打合せなどを行い、地域に開かれた教育活動を推進している。

● ポータルサイト

インターネットを使う際の玄関、入口となるウェブサイトのこと。ここでは、町田市の生涯学習に関する情報をまとめて得ることができるウェブサイトを想定している。

【ま】

● まちだ JUKU

暴力行為等を繰り返す児童・生徒に対して、一定期間個別の指導を行い、問題行動を改善し、健全な学校生活を送ることができるようにすることを目的として設置された組織のこと。

【ら】

● レファレンス

図書館利用者が、学習や調査のために資料や図書を求めた際に、図書館員がそれに適した資料や図書、あるいは情報を提供するサービスのこと。

教育の充実で



**2019年度 町田市教育委員会の権限
に属する事務の管理及び執行の状況の点
検及び評価（2018年度分）報告書**

発行 2019年（令和元年）8月
編集・発行 町田市教育委員会
学校教育部 教育総務課
町田市森野 2-2-22
電話 042・722・3111

刊行物番号

19-24

[庁内印刷]

議案第19号

町田市立学校適正規模・適正配置等審議会委員の委嘱及び任命について

上記の議案を提出する。

2019年8月2日提出
町田市教育委員会
教育長 坂本 修一

(提案理由説明)

本件は、町田市立学校適正規模・適正配置等審議会条例に基づき、町田市立学校適正規模・適正配置等審議会委員を委嘱及び任命するものです。

任期は、審議会が町田市立学校適正規模・適正配置等審議会条例第2条の規定による答申をしたときまでとなります。

○委嘱及び任命（2019年8月27日付け）

選出区分	氏名	所属（役職名等）	備考
学識経験者	さとう けいいち 佐藤 圭一	国士舘大学 （学長）	委嘱
学識経験者	たんま やすひと 丹間 康仁	帝京大学 （教育学部教育文化学科 准教授）	委嘱
市立学校の児童又は生徒の保護者	えんどう まさのり 遠藤 誠徳	小山小学校 PTA	委嘱 町田市公立小学校 PTA 連絡協議会推薦
市立学校の児童又は生徒の保護者	こざき こうへい 小崎 公平	つくし野中学校 PTA	委嘱 町田市立中学校 PTA 連合会推薦
市内の町内会又は自治会の代表	あだち ひろみ 安達 廣美	町田市町内会・自治会連合会	委嘱 町田市町内会・自治会連合会推薦
市内の町内会又は自治会の代表	なか かずと 中 一登	町田市町内会・自治会連合会	委嘱 町田市町内会・自治会連合会推薦
市立学校の教職員の代表	なかつ かずお 中田 和夫	町田市立小川小学校 （校長）	任命 町田市公立小学校 長会推薦
市立学校の教職員の代表	おおいし しんじ 大石 眞二	町田市立木曽中学校 （校長）	任命 町田市公立中学校 長会推薦

任期（審議会が町田市立学校適正規模・適正配置等審議会条例第2条の規定による答申をしたときまで）

町田市立学校適正規模・適正配置等審議会への諮問について

1 諮問理由

2018年度に教育委員会で行った児童・生徒数推計では、2019年度から2040年度までの期間に町田市立小学校の児童が約30%減少、町田市立中学校の生徒が約33%減少することが見込まれています。

また、学校施設の老朽化も進んでおり、町田市立小・中学校（以下「町田市立学校」）62校のうち、2045年度までに55校の校舎が耐用年数の築60年を迎えます。

児童・生徒数の減少や学校施設の老朽化を契機として、本市の教育目標である「夢や志をもち、未来を切り拓く町田っ子を育てる」の実現を基本的視点に据え、町田市立学校のより良い教育環境を整備し、充実した学校教育を実現するため、下記の内容について諮問するものです。

2 諮問内容

・町田市立学校の適正規模・適正配置の基本的な考え方について

本市の教育目標を基本的視点に据え、町田市立学校のより良い教育環境を整備し、充実した学校教育を実現するために必要となる適正な学級数及びその学級数を実現するうえでの通学距離・通学時間や学校の位置などの学校配置の基本的な考え方について諮問するものです。

3 その他

本件におきましては、2019年8月27日に開催する町田市立学校適正規模・適正配置等審議会において、諮問する予定です。

町田市文化財保護審議会への諮問について

1 諮問理由

町田市教育委員会が文化財を指定・登録する際には、文化財保護審議会に諮問し、町田市文化財指定・登録基準に基づいた審議・答申を受けて決定しています。この文化財指定・登録基準は、2015年の登録文化財制度導入に伴い、それまでの町田市文化財指定基準を一部改正し、現在に至っています。しかし、この基準には、これまで「旧跡」の指定・登録基準が含まれていなかったため、一部改正するために諮問するものです。

2 諮問内容

町田市文化財指定・登録基準を一部改正し、旧跡に関する基準を追加するために諮問します。

3 その他

本件は、2019年9月に開催する町田市文化財保護審議会において諮問する予定です。

(別添資料)

- 参考資料 町田市文化財指定・登録基準

○町田市文化財指定・登録基準

町田市文化財保護条例（昭和52年町田市条例第30号）第4条第1項、第20条第1項、第26条第1項、第33条第1項及び第37条第1項の規定に基づき、町田市教育委員会が行う文化財の指定及び登録は、この町田市文化財指定・登録基準により行う。

第1 町田市文化財指定基準

町田市の歴史、文化を理解する上で重要なものを市の文化財に指定するには以下の基準により行う。

1 町田市指定有形文化財

(1) 建造物

建築物（社寺、住宅、公共施設等）及びその他の工作物（石塔、鳥居等）のうち次のアからウまでのいずれかに該当するもの

ア 意匠的又は技術的に優秀なもの

イ 歴史的又は学術的価値の高いもの

ウ 市の歴史又は地域的特色において顕著なもの

(2) 絵画・彫刻・工芸品

ア 各時代の遺品のうち製作が優秀なもの

イ 絵画史上、彫刻史上、工芸史上又は文化史上重要なもの

ウ 題材、品質、形状又は技法等の点で特色があり意義の深いもの

エ 市の歴史、文化に関係の深いもの

(3) 書跡・典籍

ア 書跡類のうち書道史上又は市の文化史上重要なもの

イ 典籍類のうち原本又はこれに準ずる写本で文化史上重要なもの

ウ 典籍類のうち版本類(版木を含む。)は、印刷史上重要なもの

エ 書跡類、典籍類で歴史的又は学術的価値の高いもの

オ 書跡類、典籍類で市の歴史、文化に関係の深いもの

(4) 古文書

ア 古文書類のうち歴史上又は文化史上重要なもの

イ 日記、記録類(絵図又は系図類を含む。)は、その原本又はこれに準ずる写本で歴史上重要と認められるもの

ウ 木簡、印章、金石文等は、記録性が高く、学術上重要と認められるもの

エ 市の歴史、文化に関係の深いもの

(5) 考古資料

各時代の遺物で学術的価値の高いもの又は市の歴史上重要と認められるもの

(6) 歴史資料

ア 政治、経済、社会、文化等歴史上の各分野における重要な事象に関する遺品のうち学術的価値の高いもの

イ 歴史上重要な人物に関する遺品のうち学術的価値の高いもの

ウ 歴史上重要な事象又は人物に関する遺品で市の歴史上重要なもの

エ 歴史、文化、生活、景観等に関わる写真、映像、音声等の記録で市にとって重要なもの

2 町田市指定無形文化財

(1) 芸能

1 音楽、舞踊、演劇その他の芸能のうち次のアからウまでのいずれかに該当するもの

ア 芸術上価値の高いもの

イ 芸能史上重要な地位を占めるもの

ウ 市の文化史上重要なもの

2 1の芸能の成立、構成上重要な要素をなす技法で優秀なもの

(2) 工芸技術

陶芸、染色、漆芸、金工その他の工芸技術のうち次のアからウまでのいずれか

に該当するもの

- ア 芸術上価値の高いもの
- イ 工芸史上重要な地位を占めるもの
- ウ 市の文化史上重要なもの

3 町田市指定有形民俗文化財

(1) 次に掲げる有形の民俗文化財のうち、その形様、製作技法、用法等において、市民の生活文化を理解する上で重要なもの

- ア 衣食住に用いられるもの 例え、衣服、装身具、飲食用具、光熱用具、家具調度、住居等
- イ 生産、生業に用いられるもの 例え、農具、漁猟具、工匠用具、紡績用具、作業場等
- ウ 交通、運輸、通信に用いられるもの 例え、運搬具、舟、車、飛脚用具等
- エ 交易に用いられるもの 例え、計算用具、計量具、看板、鑑札、店舗等
- オ 信仰に用いられるもの 例え、祭祀具、法会具、奉納物、偶像類、呪術用具、社祠等
- カ 社会生活に用いられるもの 例え、贈答用具、警防用具等
- キ 民俗知識に関して用いられるもの 例え、暦類、卜占用具、医療用具、教育施設等
- ク 民俗芸能、娯楽、遊戯に用いられるもの 例え、衣装、道具、楽器、面、人形、玩具、舞台等
- ケ 人の一生に関して用いられるもの 例え、産育用具、冠婚葬祭用具、産屋等
- コ 年中行事に用いられるもの 例え、正月用具、節句用具、盆用具等

(2) (1)のアからコまでに掲げる有形の民俗文化財の収集で、その目的、内容等が、次のアからオまでのいずれかに該当し、市民の生活文化を理解する上で重要なもの

- ア 歴史的変遷を示すもの
- イ 時代的特色を示すもの
- ウ 地域的特色を示すもの
- エ 生活階層の特色を示すもの
- オ 職能の様相を示すもの

4 町田市指定無形民俗文化財

(1) 風俗慣習のうち次のア又はイのいずれかに該当し、重要と認められるもの

- ア 由来、内容等において市民の生活文化の特色を示すもので典型的なもの
- イ 年中行事、祭礼、法会等の中で行われる行事で芸能の基盤を示すもの

(2) 民俗芸能のうち次のアからウまでのいずれかに該当し、市として重要と認められるもの

- ア 芸能の発生又は成立を示すもの
- イ 芸能の変遷の過程を示すもの
- ウ 市の文化に関係が深いもの

5 町田市指定史跡

次に掲げる遺跡のうち市の歴史を正しく理解するために欠くことができず、かつ、その遺構が比較的良好に原形を保持しているもので学術的価値の高いもの

- ア 集落関係、生産関係、埋葬関係等の遺跡
- イ 役所跡、城館跡、防塁、古戦場その他政治・軍事に関する遺跡
- ウ 社寺跡その他祭祀信仰に関する遺跡
- エ 屋敷跡、町屋跡、居宅跡等
- オ 私塾、学校その他教育学芸に関する遺跡
- カ 街道、番所跡、宿場跡、上水、用水、堤防その他産業、交通、土木に関する遺跡
- キ 墓及び碑
- ク 由緒ある園地、井泉、樹石その他この類の遺跡

6 町田市指定名勝

次に掲げるもののうち風致景観の優秀なもので市にとって重要なもの

- ア 公園、庭園等
- イ 橋梁、築堤等
- ウ 緑花木、草花等の叢生する場所
- エ 鳥、魚、虫等の生息する場所
- オ 岩石、洞穴等
- カ 沼、池、湿地、湧泉、水源等
- キ 丘陵、河川等
- ク 展望地点

7 町田市指定天然記念物

次に掲げる動物、植物、地質鉱物のうち学術上貴重で市の自然を代表するもの

(1) 動物

- ア 市の著名な動物（獣、鳥、魚及び虫類以下「動物」という。）として保存を必要とするもの及びその生息地
- イ 自然環境における特有の動物又は動物群集
- ウ 特に貴重な動物の標本

(2) 植物

- ア 名木、巨樹、老樹、畸形樹、栽培植物の原木、並木、社叢
- イ 代表的な天然林、二次林、その他植物群落
- ウ 沼、池、湿地、湧泉、河川等の水草類、藻類、蘚苔類、微生物等及びその生ずる地域
- エ 着生草木の著しく発生する樹木又は岩石
- オ 栽培植物とその原種の生育地、または自生地
- カ 著しい植物分布の限界地
- キ 稀有又は絶滅の恐れがある植物及びその自生地

(3) 地質鉱物

- ア 岩石、鉱物及び化石の産出状態
- イ 市の特色を示す地質現象を保持するもの
- ウ 特に貴重な岩石、鉱物及び化石の標本

第2 町田市文化財登録基準

町田市の文化財に登録するには以下の基準により行う。

- 一 町田市指定文化財に準ずる価値が認められるもの
- 二 地域において広く親しまれてきたもの、再現することが容易でないもの、市の歴史的景観に寄与しているものの中で市の歴史、文化を理解する上で保存及び活用のための措置が特に必要と認められるもの

1 町田市登録有形文化財

(1) 建造物

第1の1(1)に規定するもののうち、原則として建設後50年以上経過し、次のアからウまでのいずれかに該当するもの

- ア 意匠的又は技術的に特色があるもの
- イ 歴史的又は学術的価値があるもの
- ウ 市の歴史又は地域的特色があるもの

(2) 絵画・彫刻・工芸品

- ア 各時代の遺品のうち製作に特色があるもの
- イ 絵画史上、彫刻史上、工芸史上又は文化史上必要なもの
- ウ 題材、品質、形状又は技法等の点で特色があり意義があるもの
- エ 市の歴史、文化に関係があるもの

(3) 書跡・典籍

- ア 書跡類のうち書道史上又は市の文化史上必要なもの
- イ 典籍類のうち原本又はこれに準ずる写本で文化史上必要なもの
- ウ 典籍類のうち版本類(版木を含む。)は、印刷史上必要なもの
- エ 書跡類、典籍類で歴史的又は学術的価値があるもの
- オ 書跡類、典籍類で市の歴史、文化に関係があるもの

(4) 古文書

ア 古文書類のうち歴史上又は文化史上必要なもの

イ 日記、記録類(絵図又は系図類を含む。)は、その原本又はこれに準ずる写本で歴史上必要なもの

ウ 木簡、印章、金石文等は、記録性が高く、学術上必要と認められるもの

エ 市の歴史、文化に関係があるもの

(5) 考古資料

各時代の遺物で学術的価値があるもの

(6) 歴史資料

ア 政治、経済、社会、文化等歴史上の各分野における重要な事象に関する遺品のうち学術的価値があるもの

イ 歴史上重要な人物に関する遺品のうち学術的価値があるもの

ウ 歴史上重要な事象又は人物に関する遺品で市の歴史上必要なもの

エ 歴史、文化、生活、景観等に関わる写真、映像、音声等の記録で市にとって必要なもの

2 町田市登録無形文化財

(1) 芸能

1 音楽、舞踊、演劇その他の芸能のうち次のアからウまでのいずれかに該当するもの

ア 芸術上価値があるもの

イ 芸能史上必要なもの

ウ 市の文化史上必要なもの

2 1の芸能の成立、構成上重要な要素をなす技法

(2) 工芸技術

陶芸、染色、漆芸、金工その他の工芸技術のうち次のアからウまでのいずれかに該当するもの

ア 芸術上価値があるもの

イ 工芸史上必要なもの

ウ 市の文化史上必要なもの

3 町田市登録有形民俗文化財

(1) 第1の3(1)のアからコまでに掲げる有形の民俗文化財のうち、その形様、製作技法、用法等において市民の生活文化を理解する上で必要なもの

(2) 第1の3(1)のアからコまでに掲げる有形の民俗文化財の収集で、その目的、内容等が、第1の3(2)のアからオまでのいずれかに該当し、市民の生活文化を理解する上で必要なもの

4 町田市登録無形民俗文化財

第1の4(1)のア、イ及び(2)のアからウに規定するもののうち、市民の生活文化を理解する上で必要なもの

5 町田市登録史跡

第1の5のアからクに掲げる遺跡のうち、その遺構が比較的良好に原形を保持しているもので学術的価値のあるもの

6 町田市登録名勝

第1の6のアからクに掲げるもののうち、風致景観に特色があるもの、地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で市民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの

7 町田市登録天然記念物

第1の7の(1)から(3)に掲げる動物、植物、地質鉱物のうち学術的価値があり、市にとって必要なもの

附則

この基準は、2011年6月3日より施行する。

附則

この基準は、2015年10月2日より施行する。

2020年度小学校教科用図書採択事務の経過及び展示会実施結果について

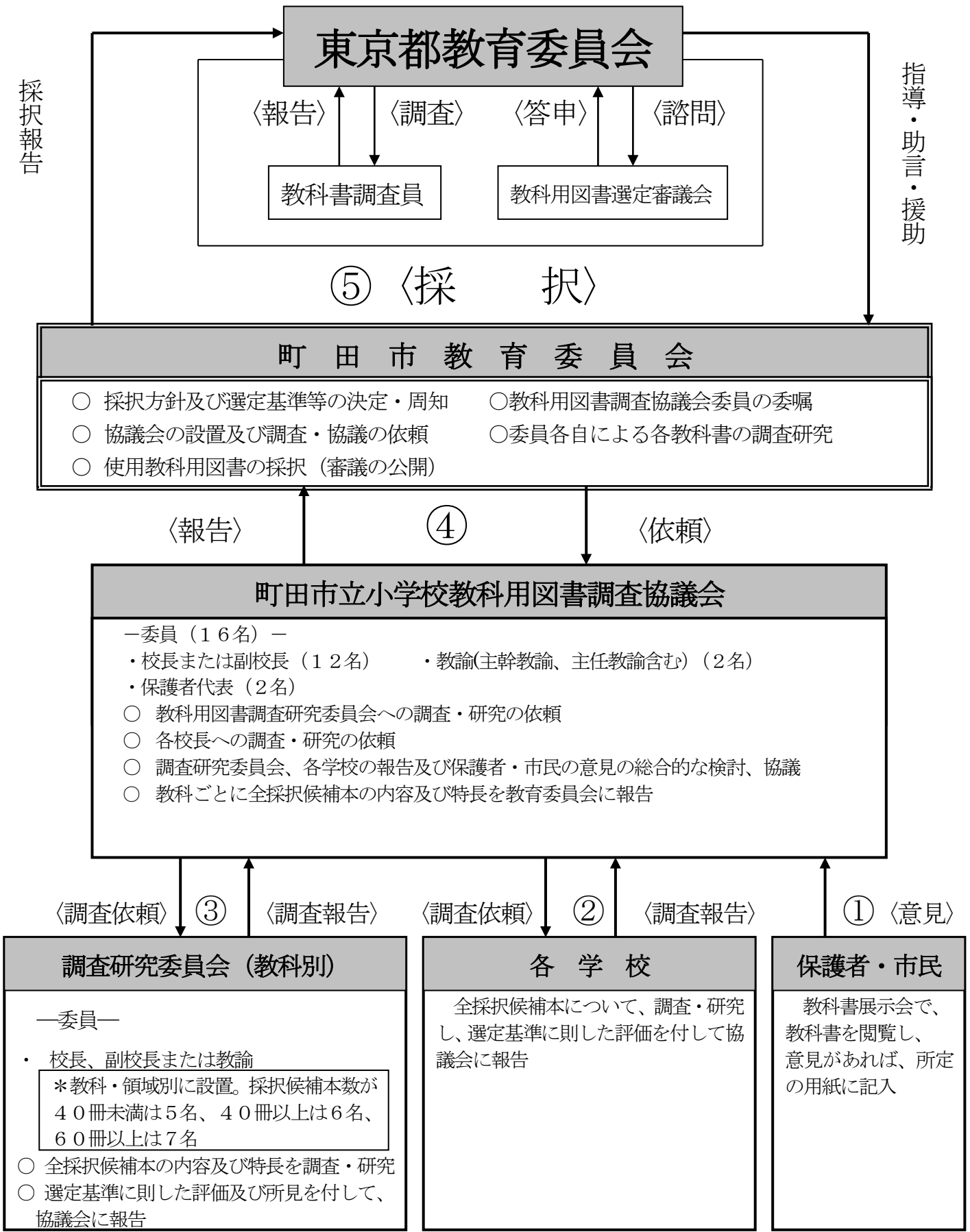
2020年度使用小学校教科用図書採択事務の経過

日程	定例教育委員会	調査協議会	調査研究委員会	学校調査研究 及び展示会
5/10(金)	第2回 □採択方針、教科用 図書選定基準及び 評価方法の審議 □町田市立小学校教 科用図書調査協議 会委員の委嘱 □教科用図書展示会 開催期間の報告			
5/13(月)		第1回(18:00～5F) □教委から委嘱書交付 □協議依頼 □採択事務日程及び選 定基準等の説明		
				教科書展示会 展示場所 ・市役所1階 ・教育センター2号館2階 ※土日は、第2・4日曜の み市役所にて閲覧可能
5/17(金)			全体会(15:30～ 10F) □協議会長から 委嘱書交付 □副委員長選出 □採択事務日程 及び選定基準 等の説明 □各部会打合せ	□各小学校 全採択候補 回覧 5/15～6/28
6/3(月)	第3回			教科書展示会 □特別展示会 5/31～6/13
6/24(月)			□各部会から協 議会長へ調査 研究報告書の 提出	□法定展示会 6/14～7/3 □7月上旬 教育委員へ 見本本配布
7/5(金)	第4回			
7/8(月)				□学校から報 告書の提出
7/12(金)		第2回(15:30～5F) □調査研究委員会各部 会から報告 □教委から学校調査研 究及び展示会の報告		□事務局から 協議会長へ 展示会意見 の報告
7/19(金)		第3回(15:30～3F) □協議会報告書案検討 □協議会報告書の作成		
8/2(金)	第5回 □調査協議会報告	□協議会長・副会長 教育委員会定例会に 出席・調査結果報告		
8/19(月)	臨時教育委員会 □協議・採択			

採択後 □東京都教育委員会へ採択結果の報告
□各学校へ採択結果通知
□広報「まちだ」掲載

2020 年度使用小学校教科用図書

採択手続きの流れ



2020年度使用教科用図書展示会実施結果

1 期間・時間 2019年5月31日（金）から7月3日（水）
午前9時から午後5時まで

2 会場（実施曜日）

町田市教育センター 2号館2階資料室・展示会 (月・火・水・木・金曜日)	町田市庁舎 1階多目的スペース (月・火・水・木・金曜日) 1階ワンストップロビー (第2・第4日曜日)
--	--

3 来訪者数 422人（教育センター31人、市庁舎391人）

4 来訪者から寄せられた意見

(1) 採択教科書に関する意見件数 66件

(2) 教科書全般・教科書展示会に関する意見件数 34件

町田市立小学校教科用図書調査協議会報告書

町田市立小学校教科用図書調査協議会

種目	国 語	1 枚目 2 枚中
教科書名 発 行 者	綜 合 的 な 評 価 ・ 所 見	
新しい国語 東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ・単元扉ページに領域が枠囲みで示され、身に付けるべき「言葉の力」の表記が端的で分かりやすく、学習の見通しをもたせやすい。単元の終わりには学習の手引きが明示され、児童も指導者も分かりやすい反面、画一的な指導に陥るおそれもある。 ・デジタルコンテンツが用意されているもののフラッシュカードレベルのものである。 ・話す聞く4単元、書く6単元、読む9単元となっている。(3年) 1単元 1 領域であり指導のぶれは生じにくい。 ・5・6年は1冊、他は上下2冊となっている。重量は6年 524 ㌘、1 年上 277 ㌘である。紙の白色度が高いため、裏移りがあり、気になる児童もいる。挿絵や写真が若干小さく、点字は凹凸のない印刷である。フォントが手書き硬筆文字の筆使いと字形に準拠しており、画数が多い漢字は見やすい。 ・教材文には、多様な文化や森林、防災、コミュニティデザインなどが取り上げられているが、難易度は少し高い。俳句・短歌は丁寧な扱いである。 	
みんなと学ぶ 小学校国語 学校図書	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉に着目し、言葉で考えを深めるための学び方が学習過程に沿って示されているが、省略や統一されていない単元もある。問題解決能力を4つの視点に分けて、単元を構成している。説明文の後に、必ず書く活動があり、学んだことを他教科にも活かせる構成である。 ・デジタルコンテンツはワークシートの PDF がほとんどで、児童の活用度は低い。 ・話す聞く5単元、書く6単元、読む8単元となっている。(3年)大単元への興味・関心が継続できるかどうかポイントとなる。 ・全学年上下2冊となっている。重量は6年上 300 ㌘、1年上 251 ㌘である。紙の色は若干クリーム色であるが、表紙は厚めで若干扱いづらい。例示の児童作品のイラストが、雑に描いてあり手本とならない。情報の取り出しのための新聞記事が白黒である。 ・教材文に外国や現代社会の題材、森林、環境破壊があり、読書単元が多めである。俳句が丁寧な扱いであるが、「花」「月」「虫」と季節ごとではないくりをしている。 	
ひろがる言葉 教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ・重点的に扱う学習過程を明記し、知識・技能が効率よく学べるようにし、生活の中や他教科との関連が図られ配列してある。学習の最後に学習の仕方が示されていたり、番号が振ってあったりして、単元全体の学び方が分かり、学習が効果的に進められるようになっている。 ・デジタルコンテンツは作成中のものが多く、未だ不明であるが、単元のワークシートや写真といった資料が主である。 ・話す聞く6単元、書く6単元、読む8単元となっている。(3年)大単元への興味・関心が継続できるかどうかポイントとなる。 ・全学年上下2冊となっている。重量は6年上 307 ㌘、1年上 271 ㌘である。紙の色が、白色で裏写りしていることもある。ページ番号が大きくて見やすい。 ・教材文に防災やエネルギーがあるが、いくつかの教材は疑問が残るものがある。教材文の文字数は、少しずつ増えていく配列になっている。 	

町田市立小学校教科用図書調査協議会報告書

町田市立小学校教科用図書調査協議会

種目	国 語	2 枚目 2 枚中
教科書名 発 行 者	総 合 的 な 評 価 ・ 所 見	
国語 光村図書出版	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項とのつながりを単元の最初に明示している。上巻よりも下巻の文章の文章構造の方が少し複雑になっているなど発達段階に応じている。単元の後ろの学習の流れが、学習指導要領に示された学習過程に基づいているので、指導しやすく、児童も学びやすい。 ・デジタルコンテンツの総数が多く、オリジナル動画がほとんどで授業活用度が高い。 ・話す聞く5単元、書く5単元、読む8単元となっている。(3年) ・5・6年は1冊、他は上下2冊となっている。重量は6年 534 ㌘、1年上 244 ㌘である。紙の色がクリーム色で落ち着きがあり、キャラクターはあまり登場せず、必要最低限である。 ・教材文には森林や環境問題があり、発達段階に無理のない配列である。情報の取り扱いに特化した教材を新設し、思考ツールや情報の論理・活用などが配慮されている。図書の紹介が多い。高学年の関心を引くような「やなせたかしの伝記」、森絵都、今泉忠明、池上彰などの新教材が豊富である。 	

町田市立小学校教科用図書調査協議会報告書

町田市立小学校教科用図書調査協議会

種目	書 写	1 枚目 2 枚中
教科書名 発 行 者	総 合 的 な 評 価 ・ 所 見	
新しい書写 東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ・水書用紙(152×233)が付いていて、終筆の指導が低学年で行える。 ・デジタルコンテンツは動画で49本あるが、そのうち10本が道具の説明などであり、教材文字分は少ない。 ・AB判の変形サイズで、見開きの情報量が多い。教材文字は左側で、大きさは普通である。 ・6年の教材文字が4、小筆1、書初めとして半紙1と書き初め用紙1がある。 ・鉛筆の書き込みがしやすく、裏移りにくい紙質である。なぞり書きのページが多い。全体的にやさしい色使いで、穂先の動きには薄墨手本が入っている。 ・学習過程は、「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」「ふりかえって話そう」「生活に広げよう」となっているが、単元で統一されていない。学習課題設定のための「見つけよう」の答えが同じページに載っている。 ・他教科や日常生活とのつながりも重視している。6年最後は書写展覧会である。 	
みんなと学ぶ 小学校書写 学校図書	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2年に学習の確かめのためのシールが付いている。 ・デジタルコンテンツは動画・画像・アプリで計42本であるが、運筆動画がなく授業での活用度が下がる。 ・教材文字は見開きで手本となるものが多い。表紙や中のイラストも賛否分かれる。 ・6年の教材文字は4、書初め用紙1で、少ない。4年の第1教材が「元気」で難しい。 ・紙が薄く、裏写りがする。薄墨手本はない。 ・学習過程は、「確かめて書こう」「考えて書こう」「生かして書こう」と統一されている。学習課題が、キャラクターの吹き出しに全てが書かれている。情報量が多く、把握しにくい。 ・「都道府県名を書こう」(6年)がよい。「ちはやふる」「歌詞を書く」(4年)などは児童の関心を惹く。6年最後は、発展として毛筆の行書を扱っている。えんぴつ先生とふでじい先生と4人の子供のキャラクターで学習のポイントを示している。 	
小学書写 教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ・水書用紙(152×233)が付いていて、終筆の指導が低学年で行える。 ・デジタルコンテンツは動画で計46本、運筆動画は31本である。 ・教材文字は概ね右側で、全体的に色数を抑えた印象である。 ・6年の教材文字は4、小筆1、書初めとして半紙1と書き初め用紙1がある。 ・用紙がクリーム色で見やすく、穂先の動きには薄墨手本が入っている。筆運びについての説明はやや抽象的である。 ・学習過程は、「見つけて比べる」「確かめて書く」「振り返り伝える」「広げる」である。学習課題は発問風に提示され、同じページにまとめがある。情報量が多く、把握しにくい。 ・理科や社会のノートを例示するなど他教科との関連が意識されている。6年最後は卒業制作があり、その後に発展として硬筆の行書がある。5年の手紙の書き方は詳細な説明と時候の挨拶例が8例ある。全学年の裏表紙は「えんぴつの持ち方」が載っている。 	

町田市立小学校教科用図書調査協議会報告書

町田市立小学校教科用図書調査協議会

種目	書 写	2 枚目 2 枚中
教科書名 発 行 者	総 合 的 な 評 価 ・ 所 見	
書 写 光村図書出版	<ul style="list-style-type: none"> ・水書用紙(175×181)が付いていて、終筆の指導が低学年で行える。3年に始筆、送筆、終筆のシール付きで、自己評価や相互評価に活用できる。6年書写ブックがよい。 ・デジタルコンテンツが多く計82本、どれも授業での活用度が高い。 ・教材文字は概ね左側で大きめである。 ・6年の教材文字は7、小筆2、書初めとして半紙2と書き初め用紙2と豊富である。 ・用紙がクリーム色で見やすく、穂先の動きには薄墨手本が入っている。 ・学習過程は、「考えよう」「確かめよう」「生かそう」で統一されている。学習課題が発問のような形で提示され、「たいせつ」にまとめられている。文字の原理・原則を学べる。 ・6年最後は卒業制作や消しゴムはんこがあり、かなり関心が高い単元である。裏表紙内側に発展として毛筆の行書がのっている。全学年統一したねこのキャラクターのポーズでポイントをつかめる。はがきの書き方で町田市が取り上げられている。 	
小学書写 日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> ・水書用紙(B5)が付いていて、終筆の指導が低学年で行える。 ・デジタルコンテンツは低1、中9、高8であり、運筆動画がないため活用度は落ちる。 ・教材文字は概ね左側である。 ・6年の教材文字は7、小筆1、書初めとして半紙1と書き初め用紙1である。書き初めは原寸大の手本となっている。「飛ぶ」はかなり難易度が高い。 ・印刷の色も全体的に淡く、微妙な色使いも感じられ、色彩にこだわりを感じる。穂先の動きには薄墨手本が入っている。用紙の白色度が高い。 ・学習過程は、「考える」「確かめる」「生かす」で統一されている。学習課題は全て提示され、振り返りではそれができたかどうかだけの問いになっている。 ・6年最後は発展として色紙を載せている。発展として5・6年に硬筆の行書がある。教材文字「もえぎ」に伝統色の見本がある。エアメールの書き方が載っている。 	

町田市立小学校教科用図書調査協議会報告書

町田市立小学校教科用図書調査協議会

種目	社 会	1 枚目 1 枚中
教科書名 発 行 者	総 合 的 な 評 価 ・ 所 見	
新しい社会 東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ・学習過程の「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」が明示され、問題解決学習として、単元全体を見通した紙面構成となっており、単元構成が分かりやすく、指導の段階が把握しやすい。「ひろげる」で発展的な内容も示されている。 ・側注と本文の役割が明確になっている。 ・「まとめる」については、思考・判断・表現等を重視しており、文章により記述させる内容が多い。 ・内容の取扱いについては概ね配慮されている。 ・導入のページで写真イラスト等の資料が大きく分かりやすい。キャラクター、吹き出し等を使って、見方・考え方を分かりやすく示している。 ・レイアウトがパターン化されていることと、側注の内容が充実され、本文と合わせて見ることができる。 ・イラスト資料の色合いが鮮やかで見やすい。歴史では原典の絵図などの資料を使用し、リアル感をもたせている。 ・6年の歴史において町田市の鎌倉街道が取り上げられている。 ・「学び方コーナー」「ことば」が示され、学習の手引きが分かりやすく示されている。 ・5年は上下の2分冊、6年は「政治・国際理解」「歴史」の2分冊である。 	
小学社会 教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ・一単位時間ごとに学習課題を示し、問いを連続させて学習のねらいを達成させる紙面構成になっている。 ・何を学ぶかが毎時間明記されていて、次時の学習へのつながりも示されているが、単元全体の学習過程における指導の段階が分かりにくい。問題解決学習としての全体を見通した学習問題との関連が分かりにくい。 ・まとめの場面については、知識・技能を重視しており、理解したことを記述させる内容が多い。 ・「学びのてびき」に学び方についての例示がある。 ・内容の取扱いについては概ね配慮されている。固有の領土について、竹島等の場所が示され、領土の範囲が分かりやすい。 ・情報量が多く、さまざまな写真その他の資料が掲載されている。ページ数が多く、内容・分量が若干多く感じる。調べるための資料は十分にある。 ・写真で分かりにくい資料をイラスト化している。資料の色合いが落ち着いており、若干見やすさに欠ける部分がある。 ・中学年の事例地に横浜が多く取り上げられており、町田に近い環境の学習をすることができる。 	
小学社会 日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> ・一単位時間における児童の学習の流れを想定した紙面構成になっている。 ・一単位時間の学習の流れに沿った統計資料等と読み物資料で構成され、活動の流れが分かりやすく示されている。単元を見通した学習問題と学習計画は導入でまとめて示されている。見方・考え方が紙面中に示されている。 ・本文の書き方が児童主体の学習場面を想定して書かれており、調べるための説明的文章と児童の分かったことの記述が分けて表記されている。 ・基礎的な内容と合わせ、発展的な内容として、児童が自主的に取り組める「わたしたちの学びを生かそう」という文章が単元の終わりに載っている。 ・まとめに児童の話し合いの場面が吹き出しで書かれているが、学習した内容が書かれており、児童が主体的にまとめをするような紙面構成になっていない。 ・内容の取扱いについては概ね配慮されている。天皇の国事行為について半ページを使ってコラムとして丁寧に載せている。 ・側注の使い方に統一感がなく、見づらい。まとめの話し合いの場面のイラストがどの単元も同じで工夫がみられない。 ・4年で狛江の水害や玉川上水が発展学習で取り上げられている。本文の事例地は関東以外が多い。 	

町田市立小学校教科用図書調査協議会報告書

町田市立小学校教科用図書調査協議会

種目	地 図	1 枚目 1 枚中
教科書名 発 行 者	総 合 的 な 評 価 ・ 所 見	
新しい地図帳 東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な各学年の目標と内容を踏まえて作成されている。 ・ 日本固有の領土について各地方別のページに記載している。 ・ 地図上にキャラクターを使った吹き出しを入れて関心をもたせている。 ・ 地方別地図に都市の拡大図を入れている。 ・ 地図上の情報量が多い。 ・ 印刷の色が濃く、文字が見にくい部分がある。 ・ 東京都の地図が小さく、町田市的位置等が掴みにくい。 ・ 地図の紙面に関連する写真が掲載されている。 ・ 地図帳の活用の仕方についてキャラクターの吹き出しを用いて解説している。 	
楽しく学ぶ小学生の地図帳 帝国書院	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な各学年の目標と内容を踏まえて作成されている。 ・ 日本固有の領土について同一ページに写真を記載し、明示している。新しい内容に対応した資料がある。 ・ 地図上にキャラクターを使った吹き出しを入れて関心をもたせている。 ・ 3年生を意識した簡易な地方別地図を入れている（広く見わたす地図）。地方別地図に都市の拡大図を入れている。 ・ 社会科の単元や領域の内容が示され、関連が図られている。QRコードを採用している。 ・ 情報量を抑えた分、見やすい表記がされている。 ・ 印刷の色合いを薄くし、文字を見やすくしている。 ・ 東京都の地図が大きく示されており、町田市的位置や形、名所等が分かりやすい。 ・ 地図の紙面に「地図マスターへの道」という問題を設定している。 ・ 地図記号の見方などの地図帳の活用の仕方についてページ数を増やして、丁寧に解説している。 	

町田市立小学校教科用図書調査協議会報告書

町田市立小学校教科用図書調査協議会

種目	算 数	1 枚目 2 枚中
教科書名 発 行 者	総 合 的 な 評 価 ・ 所 見	
新しい算数 東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ・内容面では、郷土や国際社会に関心もてるように、国内外の話題やデータを学習素材として用いていることが特長としてあげられる。また、単元末での基礎基本の確認と発展的な課題の提示でまとめに工夫が見られる。巻末では、「ふりかえりコーナー」他を設け、既習の用語・記号や定義・性質などについて取り上げ、児童が自主的に課題解決に向かえる内容となっている。 ・プログラミング学習は、5年上下、6年で扱う（プログラム教材にリンク可）。QRコードを読み取ることで、デジタルコンテンツ活用ページにリンクできる。 ・問題解決の過程で働かせる数学的な見方・考え方を可視化したり、既習との統合や発展的な考察を示唆したりしている。 ・各学年の教科書は、1年（1冊+別冊）2～5年（上・下）6年（1冊）である。特に1年の別冊は、学習を進める上で、非常に扱いやすい装丁となっている。 	
たのしい算数 大日本図書	<ul style="list-style-type: none"> ・内容面では、「ふくろう先生のなるほど算数教室」を新設し、興味関心を高めたり、算数が社会で生かされていることを実感したりできるような工夫がある。毎時間のめあてが表記されているが、めあてを考えさせる場面では扱いにくい。前学年で学習した単元とのつながりを配慮した内容構成に工夫が見られる。 ・プログラミング学習は全学年で扱っている（プログラム教材にリンク可）。QRコードを読み取ることで、デジタルコンテンツ活用ページにリンクできる。 ・表記・表現においては、写真やイラストが多く使われ、また、挿絵では、吹き出しでの会話を活用と、見やすく分かりやすいものとなっている。 ・各学年の教科書は、1～6年の全ての学年で1冊構成である。常に学年での既習事項を振り返ることが可能になるが、1冊の重量が重くなることで、ランドセルを背負う場合にその負担が心配されるところでもある。 	
みんなと学ぶ 小学校算数 学校図書	<ul style="list-style-type: none"> ・内容面では、巻頭に「3つの学びの力」として、思考力・判断力・表現力を提示し、目標の明確化を図る。単元のスタートには、学校生活場面の漫画を挿入し、導入の工夫がある。また、キャラクターを使い、「見方・考え方」を9体のモンスターで表し、興味を高め、定着を図る工夫がある。単元末では、「できるようになったこと」「まなびをいかそう」の練習問題を設け、学習内容の確認や習熟を図る工夫が評価できる。 ・プログラミング学習は全学年で扱っている（プログラム教材にリンク可）。QRコードを読み取ることで、PDFファイルや外部リンクを表示することができる。 ・「調べる」「見つける」「確かめる」といった学習過程が、系統性の保たれた図表等の表記のもとに、分かりやすく構成されている。 ・各学年の教科書は、1～5年（上・下）6年（1冊）である。AB判であり、1ページが広く使えるため、非常に見やすく、内容の配列にも余裕がある構成となっている。 	

町田市立小学校教科用図書調査協議会報告書

町田市立小学校教科用図書調査協議会

種目	算数科	2枚目	2枚中
教科書名 発行者	総合的な評価・所見		
小学算数 教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ・内容面では、上巻の冒頭に「学びの手引き」を設け、学習の進め方を紹介し、問題解決のプロセスに沿って、その定着が図れるような工夫をしている。また、「算数がすきになる はじめの一步」のページを設け、算数の楽しさに気付かせようとする工夫もある。既習事項については、巻末に「学びのマップ」のページを設け、前学年で習った内容が、単元に関連付けて振り返れる工夫をしている。 ・プログラミング学習は4・5年で扱う（プログラム教材にリンク可）。QRコードを読み取ることで、デジタルコンテンツ活用ページにリンクできる。 ・単元まとめでは、学んだことの良さや考え方を振り返る4コマ漫画を掲載し、「振り返ろう」「たしかめよう」に分けて、簡潔な表現でまとめている。 ・各学年の教科書は、1年（1冊）2～4年（上・下）5・6年（1冊）である。全体的に大きな字や小さな字の混在、挿絵が多い等、落ち着かないページが多い。 		
わくわく 算数 啓林館	<ul style="list-style-type: none"> ・内容面では、「めあて」「まとめ」が分かりやすく明文化され、単元末の「学びのまとめ」では、「たしかめよう」「ふりかえろう」「やってみよう」と課題が充実している。また、「わくわく算数ひろば」を設け、活用問題や思考力問題を扱っている。 ・プログラミング学習は5・6年で扱う（プログラム教材にリンク可）。QRコードを読み取ることで、デジタルコンテンツ活用ページにリンクできる。特筆すべきは、QRコードが各単元や練習問題のページほとんどあることである。タブレット等でリンク先に入ると、スムーズに教科書の練習問題が行えることである。1問ずつ全ての問題に「ヒント」と「答え」が得られるページとなっている。 ・「算数資料集」で説明の仕方・図の書き方を扱い、学びのサポートに配慮がある。 ・各学年の教科書は、1年（1冊）2～4年（上・下）5・6年（1冊）である。全体的にシンプルであるが、十分な情報で非常に見やすい教科書である。 		
小学算数 日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> ・内容面では、練習問題が充実している教科書である。「Hello Math」では作業的・体験的な問題を扱い、各単元末には「わかっているかな」「まちがえやすい問題」「たしかめポイント」と単元のねらいに即した練習問題を設定し、定着を図る工夫が見られる。巻末の「算数アドベンチャー」では、探究的な問題を取り上げ、「算数マイトライ」では、習熟度に応じた3段階の十分な練習問題の提供、また、既習事項の確認ページや学年に応じたコラム「なるほど算数」も豊富である。 ・プログラミング学習は、5年下で扱う（外部リンクでプログラム教材活用可）。URLのWEB上で、外部リンクやデジタルコンテンツが活用できる。 ・巻末付録の「学び方ガイド」のシートは、活用範囲が広い付録である。 ・各学年の教科書は、1～5年（上・下）6年（1冊）である。字の大きさ、絵や図、イラスト等のバランスが取れていることから、その見やすさは高く評価できる。 		

町田市立小学校教科用図書調査協議会報告書

町田市立小学校教科用図書調査協議会

種目	理 科	1 枚目	2 枚中
教科書名 発 行 者	総 合 的 な 評 価 ・ 所 見		
新しい理科 東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題のはじめの部分で教員と子どものやりとりや、マンガが描かれており、それをもとに学習課題を見出す工夫がある。見出しやすいが必然性は弱く、誘導性が強いとも言える。予想の扱いが無い場合が多い。結果→考察→まとめの表記である。問題解決後に次時につながる「次の問題につなごう」という項目がある。 ・「学びを生かして深めよう」では、日常生活との関わりに触れている。「学びをつなごう」で前学年までの学習内容と関連を図っている。「理科の広場」で発展的内容に触れている。単元終わりでは、基礎的な問題と発展的な問題がある。分量が多い。ページ分量は適切である。判が大きい分余裕がある。実験器具の使い方は巻末にまとめて示されている。立体模型や昆虫切り紙等巻末付録が充実している。動物の食べ物で教科書の向きを変えて大きく表記している。 ・字体が読みやすいものが選択されているが、全体的に文字が多い。ページの切れ目が考えることを促す工夫がある。A4判、重量は527g（6年）である。QRコード（6年）：実験器具の使い方11動画、他に10項目ある。実験用では自分で操作できる工夫がある。 		
たのしい理科 大日本図書	<ul style="list-style-type: none"> ・生活経験から疑問を見出し学習課題につなげようとしている。キャラクターのつぶやきが学習課題に誘導している。問題づくりの必然性を感じる構成である。課題解決場面では、対話を重視しており予想や考察場面で小グループで話し合う絵が多く使われている。目次に「話し合いの仕方」コラムがある。結果→考察→中学年分かったこと、高学年結論の表記である。 ・「りかのたまてばこ」等でESDや防災、科学技術、英語等様々なマークを使用している。「深めよう」、「発展」、のマークで発展的内容を明示し「サイエンスワールド」のコラムで学ぶ学年も明記している。単元終わりでは、基礎的な問題と発展的な問題がある。分量は概ね適切である。町田市の小学校の天気が使われている。大賀ハスが使われており、薬師池を連想させる。実験器具の使い方は巻末にまとめて示されチェックできるようになっている。巻末に災害避難ブック等、他にも間伐材を使ったページの工夫がある。 ・表現は概ね適切である。肌の色等、国際化を感じさせるイラストがある。写真や挿し絵の大きさはやや小さめである。実験の背景に色が付いていて見やすい。AB判、重量は468g（6年）である。QRコード（6年）：実験器具の使い方が7動画あり、博物館とのリンク8項目ある。 		
みんなと学ぶ 小学校理科 学校図書	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決型の学習を進める構成にはなっているが、学習課題を作る場面での提示の仕方がやや唐突である。課題解決後に、次の課題を見出すつながりがやや薄い。結果→考察→分かったことの表記である。結果と考察の表記が小さい。 ・実験・ものづくりに必要な準備物チェック項目や「資料」のページなど工夫されている。キュリー夫人や野口英世等のキャラクターが案内役をしている。発展の内容は少ないが、「活用」マークで発展的内容を明示している。単元終わりでは、基礎的な問題と発展的な問題がある。分量は概ね適切である。自然に関する写真は多く、町田の特性に合っている。土地や微生物の写真は良い。ただし、親しみやすいが少し堅い。プログラミングが多めの分量である。実験器具の使い方は巻末にまとめて示される。 ・文字が全体的に小さく細い。写真や挿し絵の大きさは小さめである。文字が多めで写真が少なめであり、大事な言葉を別枠で取り強調している。AB判、重量は543g（6年）である。QRコード（6年）：実験器具の使い方が15動画あり、気象のみ外部リンクがある。 		

町田市立小学校教科用図書調査協議会報告書

町田市立小学校教科用図書調査協議会

種目	理 科	2 枚目 2 枚中
教科書名 発 行 者	総 合 的 な 評 価 ・ 所 見	
未来をひらく 小学理科 教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事象提示から疑問を見出し学習課題につなげようとしている。問題づくりの必然性を感じる構成である。学習課題への誘導が少ない。学級の子どもの素朴で様々な疑問を引き出しやすい。予想に根拠をもたせる、考察で予想の振り返りをさせることを意識しており子どもの思考に沿った学習過程になりやすい。結果→考察→結論の表記である。 ・ 単元名の下に他学年との系統を意識した記述になっている。「科学のまど」コラムが興味深く読みやすい。巻末の生き物図鑑は使いやすい。ほぼ実物大の人の体の様子のページがある。他学年や他教科との関連付けている。基礎用語は黄色の蛍光色である。「はってん」マークが付いている。基礎的な問題と発展的な問題がある。問題の分量は適切である。実験器具の使い方は単元中に示されている。調べ学習資料が豊富である。町田市の事例として大賀ハスがある。他にも町田市・多摩川の写真がある。 ・ 写真や挿し絵などが大きめである。ちょうど良い場合と余白がやや少ない場合がある。ページ数多いがその分余裕がある。大切な言葉に色付けし、目が留まる工夫をしている。児童を表した絵に外国人と思われる表現がある。A B判+1.5 c m、重量は5 2 9 gである。QRコード(6年):実験器具の使い方7動画(準備中)があり、関連サイトリンク(NHK for Schoolへのリンクを含め)が8 0項目ある。他にPDFで発展実験の紹介をしている。 	
わくわく理科 啓林館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活経験から疑問を見出し学習課題につなげようとしている。予想と考察のページでは具体的な児童の発言がのっていることが多く、問題解決後に次時の問題づくりに繋げる「もっと知りたい」という項目がある。結果→考察→まとめの表記である。 ・ 巻末に月の満ち欠けモデルやプログラミング用シート、昆虫探検カード等の工夫がある。資料ページが充実し、ものづくりに対する事例が多く示されている。「発展」マークで発展的内容を明示している。単元終わりでは、基礎的な問題と発展的な問題がある。分量が多い。植物の生長のページが充実している。また、大地のづくりでは写真が多めに使われてる。実験器具の使い方は巻末にまとめて示される。巻末には調べ方や表し方、算数との関連性に関するページがあり充実している。表現は概ね適切であるもののいくつか難しいものもある。 ・ 写真が小さめである。図や挿し絵が細かい。陰影がついており、子どもの挿絵が独特のタッチなため、伝わりにくい。色づかいが淡いため、全体的に見づらい。A B判、重量は4 9 6 gである。QRコード(6年):実験器具の使い方が1 6動画あり、他に実際の実験の様子(NHK for Schoolへのリンクを含め)等が1 5動画ある。毎単元「学習の振り返り」がある。 	

町田市立小学校教科用図書調査協議会報告書

町田市立小学校教科用図書調査協議会

種目	生活	1枚目 3枚中
教科書名 発行者	総合的な評価・所見	
新しい生活 東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ・新指導要領に沿った内容となっている。各学年で曖昧になっていた単元が明示されていてとても良い。 ・保護者を安心させるようなスタートカリキュラムの説明が分かりやすく示されている。 ・写真資料が大きく、イラストも効果的に配置されていて、児童の意欲を高めることにもつながる。 ・目指すべき児童の発言や思考が吹き出しで示されており、気付きの補助になる。 ・カードの書き方や観察の仕方も丁寧に記載されている。 ・学習のまとめの場面では、電子黒板などICT機器を活用してまとめる場面が多い。 ・季節ごとにテーマカラーを変えており、どの単元をいつ頃学ぶのか一目で分かる。 ・巻末に「かつどうべんりてちょう」があり、児童が主体的に学習することができるようになっている。 	
たのしい せいかつ 大日本図書	<ul style="list-style-type: none"> ・飼育単元で小動物を扱っていない等、生き物単元に関しての内容に偏りが見られる。 ・春夏秋冬の大きな単元の中に、内容がいくつも盛り込まれ、学習指導要領上の展開が分かりづらい。 ・1年導入期の写真が小さく見えづらく、挿絵などに統一感がない。 ・児童が文字を読めない時期から言葉での説明が多い。 ・1ページ内に多くのキャラクターがいるため、児童の注意が散漫になる。 ・挿絵の色彩が鮮やかで、ポップな感じに仕上がっているが、あまり適切とは思えない写真やイラストがある。 	
みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ 学校図書	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の流れが分かりやすく構成されており、児童の「やってみたい。」という気持ちを引き出すような構成である。 ・どきどき、いきいき、ふむふむ、にこにこ、と学習のプロセスが分かりやすい。 ・発展的な内容はものしりノートに掲載するなど、分かりやすい工夫が随所に見られる。 ・内容を扱う期間の長短に応じた構成が適切である。特にまちたんけんの扱いが良い。 ・学習内容と季節（自然）を意識した構成になっている。 ・写真とともに気付きを促す言葉で構成されており、児童にとって分かりやすい。 ・写真や絵が大きく、すっきりしていて見やすい。 ・優しく落ち着いた色合いである。 ・目次は、どの時期にどの学習を行うかが一目で分かる。 ・キャラクターによる吹き出しを読むことで、課題発見や解決に向けた学習が効果的に行われるよう工夫されている。 ・学び方図鑑では、学び方の例示だけでなく、できるようになったことに○を付けて、どれだけできるようになったかを振り返ることができる。 	

町田市立小学校教科用図書調査協議会報告書

町田市立小学校教科用図書調査協議会

種目	生活	2 枚目 3 枚中
教科書名 発行者	総合的な評価・所見	
せいかつ 教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元の対象物との出会い、計画、実践、振り返りの流れがとても分かりやすい。 ・単元名が大きく書いてあり、導入から次への活動の発展内容が分かりやすい。 ・単元を網羅してはいるが、季節単元などは内容に偏りが見られる。 ・1年間の授業の流れがとても分かりやすい。朝顔と夏のように、単元の重なりなどが分かるとさらによい。 ・児童の写真から出ている吹き出しの言葉が、実態に合っていてとても良い。 ・登場人物は、人種等の多様性を意識した表現となっている。 ・目次にカレンダーがついており、どの時期にどの学習をするかが見通せる。 ・特に「学びのポケット」には、実生活や学習に生かせる見方、学び方が掲載されている。 	
せいかつ 光村図書出版	<ul style="list-style-type: none"> ・シンプルで、子供の思考や気付きに沿った記述となっている。 ・教師のまとめ方の例（板書例等）がない分、指導者の力量が試される。 ・植物の成長過程（特にあさがお）が分かりやすく、児童が見通しをもって学習に取り組むことができる。 ・植物の種の拡大写真が分かりやすく、長さも比較しやすい。 ・ホップ、ステップ、ジャンプに分かれていて、内容が少しずつ増えるのが分かる。 ・2年生の町探検を春・秋に分けるなど、教科書の構成が工夫されている。 ・雨の日の遊び方の単元は、春の活動のあとに来るとよい。 ・目次が季節ごとに色分けされており、単元導入の扉が黒板で統一されている。 ・文字を多く書けない児童でもシールのワークシートなら活用できる。写真から、課題解決の方法を考えられるようになっている。 	
せいかつ 啓林館	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムマネジメントの参考になる教科の表示（マーク）があり、他教科との連携を意識している。 ・スタートカリキュラムが丁寧に扱われている。 ・教師の言葉かけが一目で見て分かるようになっている。 ・まなびにつながるヒントをキャラクターが吹き出しで投げかけている。 ・わくわく、ぐんぐん、いきいき という学習のプロセスの段階が色分けされ、ページの右上にも表示されていて分かりやすい。 ・「すたーとぶっく」はとじ込みで、親しみやすい。「わくわくぼっくす」は、発展的な内容で、児童の“やってみたい”という気持ちにつながる。 ・学習図鑑には、学び方の資料がある。 ・QRコードでデジタルコンテンツデータ（写真、動画など）が活用できる。 	

町田市立小学校教科用図書調査協議会報告書

町田市立小学校教科用図書調査協議会

種目	生活	3枚目 3枚中
教科書名 発行者	総合的な評価・所見	
わたしと せいかつ 日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者を意識したスタートカリキュラムについての記載がある。 ・2年生進級時の「いちねんせいとなかよくなるろう」など、上下巻の系統性が意識されている。 ・低学年の児童が楽しく感じるような内容構成である。 ・振り返る、広げる、つなげる、生かすなどの学習プロセスが分かりやすい。 ・単元名やタイトルが教員主体の表現になっており、児童の思考の変化と一致しない。 ・教科書に折り線があり、折ると植物の生長が楽しく見えるような工夫がある。 ・はっけんカードが年間を通して、分かりやすく示されているため参考にしやすい。 ・授業で使う箇所と図鑑として活用できる箇所が明確に分けられている。 ・学び方や考え方が十分に載っている点が強調されるあまり、児童の自由な発想や気づきを制限してしまう懸念がある。 	

町田市立小学校教科用図書調査協議会報告書

町田市立小学校教科用図書調査協議会

種目	音 楽	1 枚目 1 枚中
教科書名 発 行 者	総 合 的 な 評 価 ・ 所 見	
小学音楽 音楽の おくりもの 教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的に(選曲・構成など)、アドバンス(上級の)である。 魅力的な曲は多いが、学習の難易度がやや高い。指導順序にも工夫が必要である。 ・ 大きさは、1・2年生が AB 判(縦が B5、横が A4)で、3～6年生は縦が 1 cm 長い。重さは、1・2年生版 175 g、3～6年生版 199 g である。ページ数は、78 頁 + 折り込み 4 頁(セルシートがある学年も有り)である。折り込みやセルシートは児童には扱いにくい。 ・ 領域ごとの教材数は、歌唱 156・器楽 52・音楽づくり 26・鑑賞 56 である。 ・ 目次が独自の表現で、内容項目がサブタイトルとして疑問型で書かれている。 ・ 主に鑑賞において体を動かす活動が具体的に示されている。 ・ 単発的な教材がある。題材の構成よりも、多様な教材を掲載してある。 ・ 記号・専門用語など、知識を学ぶことにも力を入れている。 ・ 写真がとてもきれいで、児童の興味を引き出す配慮がされている。 	
小学生の音楽 教育芸術社	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的に(選曲・構成など)、スタンダード(標準的)である。 指導内容に適した標準的な曲を選んでいる。系統性を考え、段階的に配列してある。 ・ 大きさは、全学年 AB 判(縦が B5、横が A4)である。重さは、1・2年生版 182 g、3～6年生版 185 g である。ページ数は、87 頁(低学年は-4)である。 ・ 領域ごとの教材数は、歌唱 164・器楽 75・音楽づくり 27・鑑賞 71 である。 ・ 目次に題材のねらいを明確に示している。学習ページにも示してある。 (「音楽の木」という年間に学習する内容が整理してまとめてある。) ・ 楽譜を図で示すなど、旋律の動きや特徴が視覚的に分かりやすい。 ・ 興味関心を惹く絵譜、楽器の扱い方や声の出し方を表す図が分かりやすい。 ・ 「音楽づくり」の指導が具体的で、手立てが示してあり分かりやすい。 ・ キャラクターの吹き出しが課題発見・課題解決の糸口になっており、分かりやすい。 	

町田市立小学校教科用図書調査協議会報告書

町田市立小学校教科用図書調査協議会

種目	図画工作	1 枚目 1 枚中
教科書名 発行者	総合的な評価・所見	
図画工作 開隆堂出版	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に示された各教科、各学年の目標及び内容を踏まえており、既習の学習を生かした題材を取り扱うなど、題材がバラエティー豊かである。 ・題材についての説明文が、自分で課題を見つけて解決する内容となっており、児童の個性を生かすことを大切にしている。 ・写真や題材名のロゴなど視覚的に親しみやすく、児童の考えを広げるような言葉や意欲、関心を引き出す配慮がある。 ・名画の鑑賞を題材として扱い、それをきっかけにして新たな表現活動へと発展させるなど、平面題材に発展的内容が多く見られる。 ・低学年の平面題材において、用具材料を繰り返し使うなど基本的技能をおさえながら、発展的内容となるように題材を工夫している。 ・単元教材の系統性を考えて配列されており、児童が活動している写真が大きく、一言アドバイスなどがあるため、児童が意欲をもちやすい。 ・各学年の題材に自然やパブリックアートを意識した題材が含まれており、自然が多く商業施設もある町田市にとっては、適切な表記・表現である。 ・写真付きの目次があるので、年間の題材の見通しが立てやすく分かりやすい。 	
図画工作 日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に示された各教科、各学年の目標及び内容を踏まえており、児童の内面を豊かにしようとする系統性をもって作られている。 ・単元のはじめに児童に4つの課題を投げかけ、児童の個性を生かすための提案となっている。 ・活動手順など丁寧な説明があり、児童の活動の見通しがもちやすく、学び方を習得しやすい構成となっている。 ・基礎的な内容を押さえつつ、自分たちが作った作品を鑑賞教材とするなど、発展的な活動を取り扱っている。 ・参考作品の写真が大きく、片付け方や注意点が必ずあるため、児童の活動の見通しが立てやすい。 ・町田市の小学校は、低学年の図工は担任が行うことが多く、手順など丁寧で学級担任が指導しやすい表記・表現である。 ・学習で主に使う道具・用具が記されている。 ・題材の説明文に具体的な課題を示すことで、児童が迷わず活動に取り組めるが、課題解決の面でいうと限定的である。 	

町田市立小学校教科用図書調査協議会報告書

町田市立小学校教科用図書調査協議会

種目	家 庭	1 枚目 1 枚中
教科書名 発 行 者	総 合 的 な 評 価 ・ 所 見	
新しい家庭 東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ・ A4 判で大きいので文字も大きめで情報も多くなっている。ページ数は 145 ページである。 ・ 児童が好みそうな 4 名のキャラクターや挿絵で学習を進行している。道具の使い方等写真の下地がクリーム色のためやや見づらい。 ・ 題材の説明の文章が多い。ページが広いことから発展の資料も多く配置されている。資料も写真だけでなく丁寧に文章で説明している。 ・ 余白には家庭科で使う語句の説明、技能習得等の振り返りがある。安全に実習するためのページは巻末にある。「プロに聞く」コーナーは児童が意欲をもちやすい。 ・ はじめの見開きに 5・6 年で何を学ぶか見やすく説明している。巻頭のページに QR コードは 1 箇所あり（13 の解説）動画を見ながら学習できる。 ・ 資料が多いので、家庭科の経験があると適切な場面で上手に活用できる。 	
小学校 わたしたちの 家庭科 開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> ・ AB 判なので机上で作業しながら学習するのに丁度よい大きさである。ページ数は 138 ページである。 ・ 暖かみのある挿絵である。挿絵と写真を活用し視覚的に分かりやすく短めの文章で説明している。道具の使い方が分かりやすくなるように写真とイラストを使い分けている。学年ごとに色分けされ、写真の下地がピンク色で見やすい。 ・ 「なぜ〇〇するのだろうか？」の問いで始まる題材が多い。学習に必要な情報が分かりやすくレイアウトされている。学習のめあてがあり、振り返り時にチェックできる。余白の「一口メモ」の補足が分かりやすい。安全に実習するためのページは巻頭にある。 ・ 題材の実践場面に QR コード（32 箇所）があり詳しい動画を見ながら学習できる。プログラミング学習を取り上げていて、QR コードを読み取ると演習ができる。 ・ 家庭科の経験のない学級担任でも、教科書の流れに沿うことで指導することができる。 	

町田市立小学校教科用図書調査協議会報告書

町田市立小学校教科用図書調査協議会

種目	保 健	1 枚目 2 枚中
教科書名 発 行 者	総 合 的 な 評 価 ・ 所 見	
新しい保健 東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分かりやすい図や写真があり、また学習を広げるための資料がふんだんにある。 ・ 内容が整理されて配列されている。発展的な内容は資料を中心として示されている。 ・ コラムや実生活に近づけるための「実習コーナー」に、体験を示す工夫がある。 ・ 挿絵等は見やすく分かりやすい。また、「けがの防止」の挿絵は肌や髪の色が多様である。 ・ ステップ1～4と課題発見から課題解決に向けた学習が進めやすくなっている。 ・ 最後に「深める・伝える」において、自分を振り返ったり他の人の話を聞いたりする項目があるなど、関連教科や単元名が紹介され、学びを深めさせる工夫がされている。 	
たのしい保健 大日本図書	<ul style="list-style-type: none"> ・ WEB 資料や実習のしかたなど指導方法の工夫に配慮されたつくりとなっている。クイズやミニ知識などが載っていて、児童が関心を引きやすいつくりとなっている。 ・ 見開き1ページで1時間単位の授業構成になっている。ワンポイントアドバイスがあるが、第二次性徴のページでは、児童が困ったときに大人に相談するコーナーが次ページにあり、見落としてしまう可能性がある。 ・ マークを使って内容を見やすくしている。単元ごとの授業の流れや教科書上にあるマークなどが統一されているので分かりやすい。 ・ 「話し合ってみよう」「やってみよう」のコーナーがあり、課題発見の機会を設定している。各単元の導入のクイズと学習内容とのリンクが分かりづらい。 ・ 課題をつかむ⇒活動を通して解決する⇒活用する⇒まとめるというサイクルでの授業スタイルになっている。 	
わたしたちの 保健 文教社	<ul style="list-style-type: none"> ・ 柔らかなタッチの挿絵が使用されている。ページによっては、挿絵の点数が多くなっている。 ・ 中学年においては、過不足なく取り扱われている。高学年では、覚醒剤について挿絵にはあるが、本文の中では使用されていない。 ・ 1ページの情報量は、文章挿絵や写真等含め、比較的多い。そのためか、基礎的・基本的な内容と発展的な内容が近接して掲載されている。 ・ 「やってみよう」コーナーに運動を示す工夫がある。児童が関心をもちそうな内容に関しては、デジタルコンテンツのQRコードが記載されている。 ・ 単元の最後に、「新しい自分にレベルアップ」というコーナーがあり、自分の課題に取り組めるようになっている。 	

町田市立小学校教科用図書調査協議会報告書

町田市立小学校教科用図書調査協議会

種目	保 健	2 枚目 2 枚中
教科書名 発 行 者	総 合 的 な 評 価 ・ 所 見	
小学保健 光文書院	<ul style="list-style-type: none"> ・冒頭に、スポーツ選手のコメントや写真が載せられており、オリンピック・パラリンピック教育に関連付けて、指導しやすい。挿絵や写真、グラフ、4コマ漫画により、関心を引く工夫がされている。 ・WEBの紹介やQRコードによる動画資料が活用できるようになっており、多様な課題解決を促す工夫がされている。 ・各内容の最後に学んだことを生かすための記述欄が設けられ、一定のまとまり毎に発展的な内容が設けてある。 ・発達段階に適切な易しい表現になっている。また、ルビもふってあり工夫されている。見開き1単位時間で構成されていて、第二次性徴のページでは「性についての悩み」のコーナーで、児童が大人に相談しやすい構成になっている。 ・単元の最後に「自分の生活に生かす・伝える」というコーナーがあり、自分の学びを生活に生かさせるようになっている。 	
みんなの保健 学研教育みらい	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、児童が学びを生活に生かせるよう挿絵を見て考えたり、実際に起こりそうな場面を例にして記述したりしている。 ・これまでの生活を振り返ることで課題を見つけることにつなげている。また、単元の毎時間の流れがつかみやすい。発展的な内容のページを設けて学びを生活に生かせるようにしている。 ・児童が毎時間の見通しをもてるよう、1時間の学びの構成が、「つかむ」⇒「考える、調べる」⇒「まとめる、深める」となっている。 ・「実習」コーナーに体験を示す工夫がある。難しい言葉には説明があったり、例が載っていたりして分かりやすい表現になっている。 ・単元の最後に「生活につなげる」というコーナーがあり、自分で学んだことを身に付けようと意識を高めさせるようになっている。 	

町田市立小学校教科用図書調査協議会報告書

町田市立小学校教科用図書調査協議会

種目	道 徳	1 枚目 3 枚中
教科書名 発 行 者	総 合 的 な 評 価 ・ 所 見	
新訂 新しい道徳 東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ・「道徳の時間がはじまるよ」にて道徳での関心を高められる。QRコードなし。Dマークにより、インターネット教材が活用できるようになっている。振り返りのぬり絵で学習意欲を高めることができる。分冊ノートはない。巻末に学期ごとの学習のまとめのページがある。 ・基本的な内容が前半、発展的な内容が後半になるように構成されていて分かりやすい。ねらいとする道徳的価値にたどりつけるように、教材の配列が工夫されている。難しい内容は後半にある。 ・ルビがふられていて、分かり易い。文章は読みやすく、分かりやすい内容になっている。国際理解やオリンピック・パラリンピックに関する教材が多く、町田市の地域性に合っている。 ・教科書の教材の最後に本文を通して考える発問と、自分の事を振り返って考える発問があり、工夫されている。挿絵が大きく、学習を振り返るノートのようなページが最後にあって活用できる。 	
かがやけみらい 小学校道徳 学校図書	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して全ての内容を扱えるように、教材の配置を工夫している。QRコードで人物紹介の画像を見ることができる。分冊ノートがある。(目次にまとめて主題名が提示されている。) ・単元・教材の系列性を考えて、理解が深まるように配列されている。絵を大きく見せ、教材への関心を引き出している。 ・イラストが多く用いられている。絵が大きく見えるように配置の仕方を工夫している。(見開きにしてしたに文章を入れるなど) 児童に起こりうる状況で考える教材があり、親しみやすい教材である。 ・ノートに教材を通して考える発問と、自分の事を振り返って考える発問が用意されている。目次とは別に領域の構成が分かるページが、教科書の最後と、ノートの最初にある。「きづく」「かんがえよう」「みつめよう」と、学習のプロセスが示されている。 	
小学道徳 はばたこう 明日へ 教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末の「学びのきろく」により、学習した日の記録や学習のふり返りができる。キャラクターの吹き出しが考えるヒントになっている。QRコードなし。分冊ノートなし。書き込みページは、ほとんどない。 ・同じ内容項目の教材を順番に配置することで理解が深まるように工夫されている。系統性を考えて配列されている。他教科との関連が書かれている。 ・言葉の意味が詳しく説明されている。ルビがふられていて、分かり易い。低学年は、文の量を少なくし、吹き出しや絵で補っている。実際の写真が大きく掲載されていて分かり易い。色使いが優しく、柔らかい印象の絵が多い。 ・目次とは別に、領域別の構成が分かるページが最後にある。「やってみよう」「考えよう」「ふかめよう」などがあるので、子供が活動をしやすい。体験を通して、考えを深める活動が設定されている。「自分だったら」と考える発問が用意されている。 	

町田市立小学校教科用図書調査協議会報告書

町田市立小学校教科用図書調査協議会

種目	道 徳	2 枚目 3 枚中
教科書名 発 行 者	総 合 的 な 評 価 ・ 所 見	
道徳 きみがいちばん ひかるとき 光村図書出版	<ul style="list-style-type: none"> • 絵や写真がとても多く、親しみやすい内容になっている。学びの記録を学期毎に記入できるページがある。教材の最初に、どのようなことを考える時間なのか、キャラクターが提示していて関心を引き出している。QR コードなし。分冊ノートなし。 • 難しい内容は、説明を詳しくしているため、教材により分量が調節されている。 • 写真や絵を印象的に見せたいところを大きく載せており、内容が分かりやすくなっている。児童に親しみやすい内容になっており、児童に起こりうる場面が教材になっている。 • 発問が板書計画のように各教材の後ろに記載されており、順を追って考えられるようになっている。物語の題名の近くにキャラクターの吹き出しで導入の発問が設定されている。最後に自分の生活を振り返る質問が用意されている。 	
小学道徳 生きる力 日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> • 「道徳のとびら」で1年間の学習のイメージをもたせている。振り返る時間の発問を児童の実態に合わせて設定することができる。QR コードなし。ただし、ホームページから参考資料が閲覧可能である。 • 短く、大変読みやすい。ねらいとする道徳的価値にたどりつけるように、教材の配列が工夫されている。教員が使いたい教材を選べるように付録がある。国語との違いが分かりやすい。 • 登場人物の説明、あらすじがあり、分かりやすい。どのような場面なのか、最初に短くまとめられていて、児童が想像しやすい。発問が分かりやすく、適切な表現になっている。 • ノートに自分の生活を振り返る発問がある。ノートを使用した際には、保護者と教員が確認できるように工夫されている。 	
小学道徳 ゆたかな心 光文書院	<ul style="list-style-type: none"> • 挿絵に写真が多く活用されているので、イメージし易い。「学びのあしあと」で授業の記録をつけ、振り返ることができるようになっている。最初に自分の生活を振り返る発問が用意されていて、考えるきっかけとなっている。 QR コードなし。分冊ノートなし。 • 35時間よりも多い、40時間もの教材があるので、取捨選択しやすい。 通常の教材に加えて、発展的な内容として付録教材が入っている • 登場人物についての紹介の絵がある。発問を下の段に掲載して児童にとって分かりやすい。字の大きさが適当である。 • 発問と中心発問が分けて書いてある。何を考えればよいか分かりやすい。発問が板書計画のように各教材の後ろに記載されており、順を追って考えることができる。 	

町田市立小学校教科用図書調査協議会報告書

町田市立小学校教科用図書調査協議会

種目	道 徳	3 枚目 3 枚中
教科書名 発 行 者	総 合 的 な 評 価 ・ 所 見	
新・みんなの どうとく 学研教育 みらい	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末の「心のたから物」は児童がすすんでメモをとり、意欲的に取り組める。QRコードで画像・音声を読み取れる補助教材がある。分冊ノートなし。各単元末に考えたことを書き込むことができるページが用意されていて、活用できる。 ・同じ内容項目を近い時期に指導できるように順番を工夫している。 ・ルビがふられていて、分かり易い。難しい言葉の説明が詳しく書かれている。 <p style="margin-left: 20px;">絵の使い方や文章の区切り方で場面が分かりやすくなっている。装丁が縦に長く、字も絵も大きく見やすい。写真が多い。自然豊かな町田の地域性に合う教材が多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の視点に立って考える教材があり、児童が様々な視点で課題解決ができるようになっている。「やってみよう」で、役割演技の活動が設定されている。 	
みんなで考 え、話し合 う小学生の道徳 廣濟堂 あかつき	<ul style="list-style-type: none"> ・冒頭にどの学年も詩が載せられている。学習の道すじが書かれているため、児童は授業の見通しがもてる。QRコードなし。ただし、ホームページから参考資料が閲覧可能である。別冊ノートあり。書き込み欄多く、考えを整理しやすい。 ・同じ内容項目でも、理解が深まるように、難しい教材が後半になるように工夫されている。 ・ルビがふられていて、分かり易い。難しい言葉の説明が詳しく書かれている。 <p style="margin-left: 20px;">文章は読みやすく、適切である。イラストが、お話の場面に合わせて配置されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学習のみちすじ」に本時で考える内容が明記されている。どうとくノートに自分の生活を振り返る発問があり、同じ内容項目は1ページに記入できる。どうとくノートは、感じたことや考えたことをまとめられる欄があり、自由度が高く、考えをまとめやすい。 	

町田市立小学校教科用図書調査協議会報告書

町田市立小学校教科用図書調査協議会

種目	英語	1 枚目 3 枚中
教科書名 発行者	総合的な評価・所見	
NEW HORIZON Elementary English Course 東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2年間の構成が、自分→地域→日本→世界の国々→世界と日本→中学校への扉となっており、系統性がある。各学年8つのUnitで構成され、導入、展開、まとめがそれぞれ2単位時間である。展開ページに必ずグループワークが組み込まれている。 ・ 途中、巻末の作品を貼るページがあり、作業好きの児童を飽きさせない工夫がある。 ・ QRコードは音声のみと映像付きにわかれており、家庭学習の一助になっている。 ・ 児童同士のやりとりは、例文のみ提示されているため、指導者の工夫が必要である。 ・ A4判教科書と別冊 Picture Dictionary 併用型なので児童の負担感がある。 ・ 情報量が多く、担任は事前にめあて、展開方法をきちんと把握する必要がある。 ・ 音声 CD 等を的確に使いこなし、児童を集中させる工夫が求められる。 	
Junior Sunshine 開隆堂出版	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各学年見開きページに Can-Do マップを載せ、各 Lesson のめあてを示している。 ・ 全体の構成を大きく音声指導（活動）と文字指導を分け、途中に Project としての発表活動を取り扱っている。 ・ 各ページの日本語の指示が非常に簡素化されているため、担任は日本語での補足説明が必要になる可能性がある。 ・ 情報量もさほど多くないため、担任は教科書通りの展開で対応できる。 ・ 巻末に切り取り式の教材があるが、活動後の児童保管ができるか課題がある。 ・ 教科書通りに展開しやすい構成である反面、教科書の活用法の説明がなかったり、6年生は 11Lesson もあったりするなど時数が多い。 ・ AB判教科書である。 	
JUNIOR TOTAL ENGLISH 学校図書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各 Lesson の最初にめあてが記され、全体が“聞く”“話す”“読む”“書く”の流れになっている。各アクティビティが15分間に対応している。日本語での指示は多いものの、教科書通りに進めやすい。 ・ 各 Lesson 最初のページが挿絵のみで構成され、しっかり英語を聞き取らせる工夫がある。その後、身近な話題を取り上げ、互いのやりとりがしやすいような構成になっている。 ・ 各 Lesson の最後に振り返りのコーナーがあるため、児童は学習の振り返りが可能である。 ・ 文字指導は、文字→単語→文章の段階になっている。 ・ 各 Lesson の最後に英語の絵本が紹介されている。一つの物語を2年間を通じて掲載していること、各 Lesson のめあてに関連した語句がちりばめられていることから、系統性がある。 ・ 巻末の英語の歌、Word List が充実している。 ・ 絵本のページに QRコードあがるとより効果的である。 ・ A4判教科書である。 	

町田市立小学校教科用図書調査協議会報告書

町田市立小学校教科用図書調査協議会

種目	英 語	2 枚目 3 枚中
教科書名 発行者	総合的な評価・所見	
CROWN Jr. 三省堂	<ul style="list-style-type: none"> ・Hop で学習の見通しを立て、Step の Lesson で活動を行い、Jump でプレゼンテーションを行う構成となっている。日本語の指示は非常にシンプルで分かりやすいが、担任が指導をする際、かなり補助的に説明する必要がある。 ・各 Lesson のめあてが日英両方で記され分かりやすい反面、挿絵が非常に細かく、児童はめあてより絵に興味をもってしまう可能性がある。 ・Jump で扱うプレゼンテーションは、日本語での説明が充実していて児童が準備しやすい形式になっている。 ・QR コードは読み取りに時間がかかる。アルファベットの活字体が統一されず、児童が混乱しやすい傾向がある。 ・Enjoy Reading や Story に出てくる内容が各 Lesson との関連性が薄く、唐突であるため、理解の手助けをするために補助的説明が必要である。 ・AB 判教科書である。 	
ONE WORLD Smiles 教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ・全体が、Watch (見る) →Listen (聞く) →Activity (活動) の順で構成されている。 ・最初に映像を見て話している内容を想像したり、話している絵に触れたりする形式が多く、指示や活動内容がシンプルなため、指導者が活動を補足する必要がある。 ・DVD、音声CDを多用しないと授業展開が困難なため、教室環境を整える必要がある。 ・各 Lesson 毎に振り返りのコーナーはあるものの、Reading, Writing のページがほとんどない。(特に5年生) ・Classroom English が冒頭に取り上げられているが、英語表記が全くない。 ・巻末にワークシートがついているが、指導者が豊富な例題を提示する必要がある。 ・唯一 QR コードがない教科書のため、家庭学習を行う場合は音声の聞き取りに児童は困難することが予想される。 ・AB 判教科書である。 	
Here We Go! 光村図書出版	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書冒頭にCAN-DOリストがある。各 Unit 最初には全体のめあてが明確に示され、各 Step の活動内容も日本語表記のため児童にとっては分かりやすい。 ・QR コードの画像、音声が発音されていて家庭学習には効果的と考える。 ・Fun Time に早口言葉、文字遊び、英語の歌、英語の詩や物語等がちりばめられ、児童の興味を引く工夫がある。 ・各 Unit 見開きページ以外は、全体的に日本語の指示に沿って授業を展開する構成であり、英語で授業を進める場合、児童の集中が途切れないように工夫する必要がある。 ・Reading で紹介されている英文は、各 Unit の内容を文字にしている。復習教材としては価値があるが、新たな読み物としての新鮮みに欠ける。 ・AB 判教科書である。 	

町田市立小学校教科用図書調査協議会報告書

町田市立小学校教科用図書調査協議会

種目	英 語	3 枚目 3 枚中
教科書名 発 行 者	総 合 的 な 評 価 ・ 所 見	
Blue Sky elementary 啓林館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各 Unit 冒頭のタイトルが色つきイラスト文字風で、アルファベットというより絵感覚で分かりづらい。 ・ Unit 全体及び各 Part のめあての文章表現が非常に小さく、その場面で何を学ぶのが伝わりにくい。全体的に似かよった活動が多く（線で結ぶ、選ぶ等）児童の興味を持続するには困難である。 ・ 書く作業は比較的多く、振り返りのページもある。ただし、全体的に活動や情報量が少ないため、担任の工夫が必要になる。特に、児童同士のやりとりや絵本等の物語指導が非常に少ない。 ・ QR コードは Unit 冒頭のイラストに表示されている単語（文章）を繰り返すのみで、まとまりのある文章を聞き、内容を推測する等の工夫が見られない。 ・ AB 判教科書である。 	